日本中央競馬会
特別振興資金助成事業

2020年度国産食肉加工品国際競争力強化対策事業

加工資材等安定確保対策事業調査報告書

イギリス編

令和３年３月

日本ハム・ソーセージ工業協同組合

はしがき

日本で生産されるソーセージ類のうち、ウィンナーソーセージとフランクフルトソーセージの生産量割合（2020 年）は、それぞれ 76.5％と 9.6％となっている。このうち、ウィンナーソーセージの約 60 ～ 65％に羊腸が、フランクフルトソーセージの約 20 ～ 25％に豚腸が使用されており、美味しいソーセージには欠かせない重要な加工資材として、その安定供給が求められている。

2020 年の天然ケーシングの輸入数量（財務省貿易統計）は、4,234.4 トン（対前年比 96.7％）であったが、中国･オーストラリア･ニュージーランド産の輸入割合は 96.2% と、この 3 カ国からの輸入に大きく依存している。特に、日本に輸入される天然腸の約 61％が中国産であること、船積地ベースでは、豪・NZ 産天然腸の多くが中国で加工された後に日本に輸出されることから、中国からの積み出し分は約 95% となっている。

我が国の天然ケーシング輸入がこれら 3 カ国に大きく依存している中で、近年の豪・NZ の異常乾燥や畜種の変化による羊飼育数の減少、中国でのアフリカ豚熱（ASF）の発生拡大による豚飼育頭数の激減など天然ケーシングを巡る貿易環境は変化しており、これらの国からの供給量や供給ルートに制約が生じた場合には、我が国のソーセージ産業および市場価格への影響は甚大なものとなることが予想される。

こうしたリスクに対処し天然腸の安定供給を確保するためには、天然腸の調達可能国の拡大や調達ルートの多様化が喫緊の課題となっている。

当組合は、この天然ケーシングの安定確保のための課題を解消するため、令和元年度から令和 2 年度にわたり、「国産食肉加工品国際競争力強化対策事業（加工資材等安定確保対策事業事業）」を実施し、将来的な天然腸輸入の可能性を調査してきたところであり、昨年度はスペインを対象として現地調査を行った。

本報告書は、本年度イギリスを対象として調査結果を取り纏めたものであるが、新型コロナウイルス感染症拡大の中での実施であり、現地調査が困難となったため基礎データを中心に取り纏めた。

令和 3 年 3 月

日本ハム・ソーセージ工業協同組合

目　次

第1章　イギリス天然ケーシング調査の概要

1．調査対象国について …… 1
(1)イギリスを調査対象国にした理由 …… 1
2．イギリス概況 …… 2
(1)基本情Z報 …… 2
(2)経済概況 …… 2
(3)畜産概況 …… 3
(4)羊肉および豚肉の輸入状況 …… 7
(5)羊肉および豚肉の輸出状況 …… 9
3．イギリスの天然ケーシング産業の概況 …… 14
(1)イギリスの天然ケーシング市場の現状 …… 14
(2)天然ケーシング市場の展望 …… 19

第2章　イギリスの天然ケーシング製造の概況

1．主要な事業者 …… 20
(1)メーカー …… 20
(2)卸売業者・商社 …… 21
2．認証制度 …… 22

第3章　イギリスからの天然ケーシング輸入関連規制等

1．日本の食肉加工品の輸入関連法令の概況と現状 …… 23
(1)食肉加工品の輸入関連法令の概況 …… 23
(2)イギリスからの天然ケーシング輸入に関する法規制等の現状 …… 23
2．イギリスの特定危険部位(SRM)関連規制 …… 25

第4章　天然ケーシング輸入の現状と見通し

1．日本の天然ケーシング輸入の現状 …… 26
2．イギリスからの天然ケーシング輸入再開への見通し …… 26

第5章　現地有識者へのインタビュー

1．現地有識者① …… 27
(1)面談者:Mr. F. R …… 27
(2)インタビュー概要 …… 27
2．現地有識者② …… 28
(1)面談者:Ms. N. W …… 28
(2)インタビュー概要 …… 28

第6章　まとめ

1．まとめ …… 30
2．参考資料 …… 31

終わりに …… 33

第1章　イギリス天然ケーシング調査の概要

1．調査対象国について

(1)イギリスを調査対象国にした理由

現在の天然ケーシングの日本への供給国は、中国、オーストラリア、ニュージーランドに集中している（表 1､表 2)。これは､かつてイギリスを中心に発生した BSE を原因として､欧州からのケーシングの輸入を実質的に禁止したことによる（2000 年には、欧州から約 440 トンの輸入実績があるが、2002 年には、約 10 トンに減少した。)。また、イギリスに限って見ると、1997 年以降から「HS コード：050400011　動物性生産品　ソーセージケーシング用のもの」の輸入実績はない（出典：財務省貿易統計)。

しかしながら、2019 年 1 月 9 日以降、イギリス産のめん羊肉およびめん羊臓器について、一部の部位を除き輸入が再開されることとなった。

加えて、EU 諸国の羊飼育頭数を見ると、イギリスは、2 位のスペインの約 16,000 千頭の倍以上となる 34,000 千頭の羊を抱える EU 第 1 位の羊飼育国であることがわかる（表 3)。

以上の点より、イギリスを調査対象国とした。

表 1　国別天然ケーシング輸入実績年次推移　（重量ベース、単位：kg）

国　名	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中華人民共和国	2,493,288	2,189,183	2,708,722	2,638,569	2,698,712	2,578,946
ニュージーランド	339,385	393,862	645,815	680,104	879,249	853,019
オーストラリア	830,530	877,239	590,809	819,001	691,351	641,179
アメリカ合衆国	57,959	22,952	39,810	25,744	52,597	125,354
モンゴル	15,372	24,327	13,384	16,529	53,947	35,793
ウルグアイ	880	-	795	1,130	1,080	-
トルコ	-	-	-	-	623	-
チリ	2,370	2,337	2,419	1,147	-	-
エジプト	2,970	-	8,750	900	-	-
カナダ	-	-	-	2,249	-	-
パキスタン	6,595	3,960	6,463	-	-	115
台湾	-	570	-	-	-	-

出典：財務省貿易統計

表 2　国別天然ケーシング輸入実績年次推移　（金額ベース、単位：千円）

国　名	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中華人民共和国	11,877,690	8,518,157	10,862,076	11,127,454	10,409,633	9,807,445
ニュージーランド	1,857,076	1,548,825	2,576,296	3,013,947	4,054,100	3,332,757
オーストラリア	5,715,379	5,244,851	2,991,663	4,364,197	3,618,097	2,815,574
アメリカ合衆国	84,580	33,987	61,349	48,972	98,215	219,430
モンゴル	138,783	157,326	81,692	107,984	272,480	195,306
トルコ	-	-	-	-	2,000	-
ウルグアイ	748	-	911	1,064	1,881	-
カナダ	-	-	-	5,267	-	-
エジプト	391	-	30,441	4,051	-	-
チリ	2,624	2,023	2,058	1,041	-	-
パキスタン	16,038	7,083	10,746	-	-	206
台湾	-	3,391	-	-	-	-

出典：財務省貿易統計

表 3　EU 諸国の中での羊・豚飼育頭数順位（2018 年）

順　位	羊の飼育頭数（千頭）		豚の飼育頭数（千頭）	
第 1 位	**イギリス**	**33,781**	スペイン	30,804
第 2 位	スペイン	15,853	ドイツ	26,445
…	…	…	…	…
第 9 位	…	…	**イギリス**	**5,055**

出典：FAOSTAT

2．イギリス概況

(1) 基本情報

- 正式国名：グレートブリテン及び北アイルランド連合王国
- 面　　積：24 万 2,514km2（日本の約 3 分の 2）
- 人　　口：6,680 万人（2019 年、出典：英国国民統計局）
- 首　　都：ロンドン　人口 896 万人（2019 年、出典：同上）
- 元　　首：女王エリザベス二世陛下
- 政　　府：ジョンソン保守党内閣（2019 年 7 月発足）

(2) 経済概況

イギリスは 2020 年 1 月 31 日に EU を離脱することが決まり、2020 年 12 月 31 日までの移行期間を経て EU の経済圏から完全に抜けることとなりました。

実質 GDP 成長率はプラス成長を続けているものの、その成長速度は 2014 年から継続的に鈍化していることがわかる。また、失業率は 2019 年までは堅調に推移してきたものの、2020 年に入り他国同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、悪化の兆しが見られている（表 4）。

表 4　イギリスの基礎的経済指標

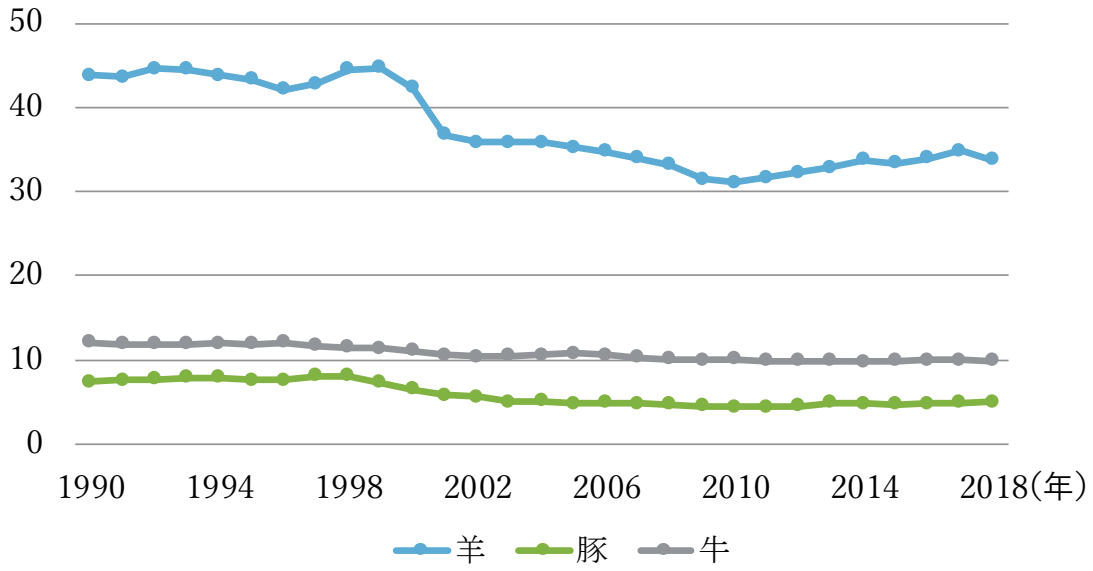
年　次	実質 GDP 成長率（%）	名目 GDP 総額（10 億円）	一人当たりの名目 GDP（円）	消費者物価上昇率（%）	失業率（%）
2014	2.95	318,811.50	4,935,420	1.45	6.19
2015	2.35	304,195.50	4,671,975	0.37	5.37
2016	1.79	280,255.50	4,269,090	1.01	4.91
2017	1.82	277,210.50	4,197,585	2.56	4.40
2018	1.40	297,024.00	4,470,900	2.29	4.09
2019	1.24	288,078.00	4,308,150	1.74	-

出典：JETRO「イギリス　概況・基本統計」

(3) 畜産概況

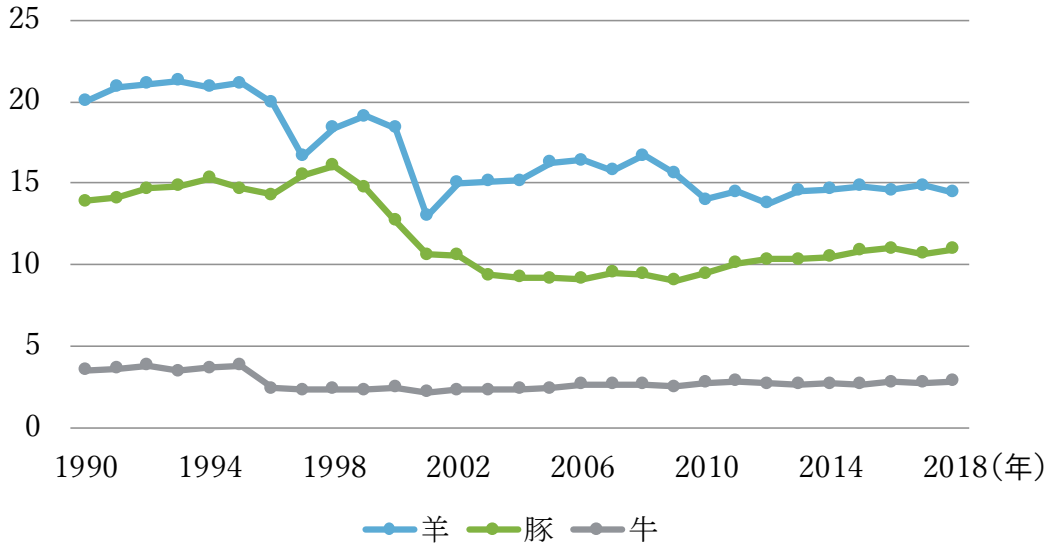
イギリスの家畜の飼養頭数とと畜頭数を見ると、いずれも 2010 年ごろから概ね横ばいで推移していることがわかる。羊については、飼養頭数が 3,000 万頭から 3,500 万頭、と畜頭数が約 1,500 万頭前後を推移している。豚については、飼養頭数が約 500 万頭、と畜頭数が約 1,000 万頭前後を推移している。牛については、飼養頭数が約 1,000 万頭、と畜頭数が約 300 万頭前後を推移している（図 1、図 2）。

図 1　イギリスの羊・豚・牛飼養頭数　（単位：百万頭）



出典：FAOSTAT

図 2　イギリスの羊・豚・牛と畜頭数　（単位：百万頭）



出典：FAOSTAT

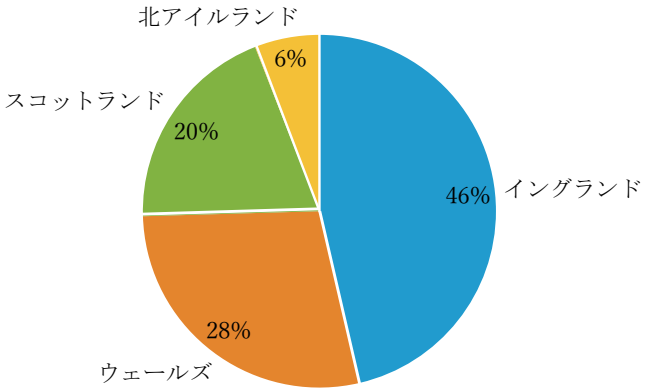
イギリスの羊飼養頭数を地域別に整理した。イングランドが 15,651 千頭（約 46%）の羊を飼養しており、ウェールズ 9,531 千頭、スコットランド 6,593 千頭、北アイルランド 2,006 千頭と続く（表 5）。

表 5　イギリスの地域別羊飼養頭数　2018 年

（単位：千頭）

地　域	飼養頭数
合　計	**33,781**
イングランド	15,651
ウェールズ	9,531
スコットランド	6,593
北アイルランド	2,006

出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成



イギリスの地域別豚飼養頭数に関しては、羊よりもさらにイングランドへの集中が進んでいる。2018 年のイングランドの豚飼養頭数は 4,060 千頭（81%）であった。次に、北アイルランドが 551 千頭、スコットランドが 366 千頭、ウェールズが 35 千頭と続く（表 6）。

表 6　イギリスの地域別豚飼養頭数　年次推移

（単位：千頭）

地　域	2014	2015	2016	2017	2018
合　計	**4,805**	**4,744**	**4,871**	**4,974**	**5,012**
イングランド	3,948	3,862	3,980	4,045	4,060
北アイルランド	472	488	506	532	551
スコットランド	347	355	345	363	366
ウェールズ	39	38	39	35	35

出　典：AHDB (2019). UK pig facts and figures - 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/uk-pig-facts-and-figures-2019

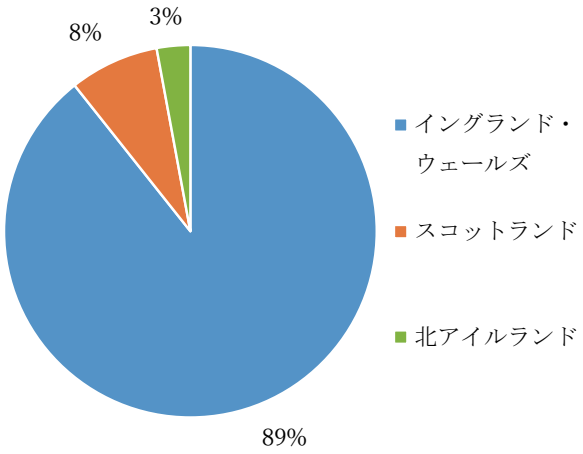
イギリスの地域別羊と畜頭数は、地域別羊飼養頭数と比例した形で、イングランド・ウェールズがその大半を占めている。2018 年のイングランド･ウェールズの羊と畜頭数は 12,879 千頭(89%)、スコットランドは 1,120 千頭、北アイルランドは 319 千頭であった（図 3)。

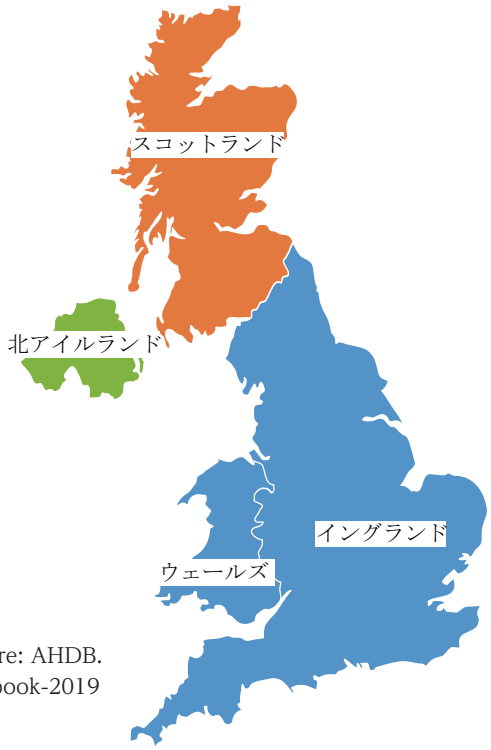
表 7　イギリス地域別羊と畜頭数　2018 年

地　域	と畜頭数（千頭）
合　計	**14,418**
イングランド・ウェールズ	12,879
スコットランド	1,120
北アイルランド	419

出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

図 3　イギリス地域別羊と畜頭数　2018 年

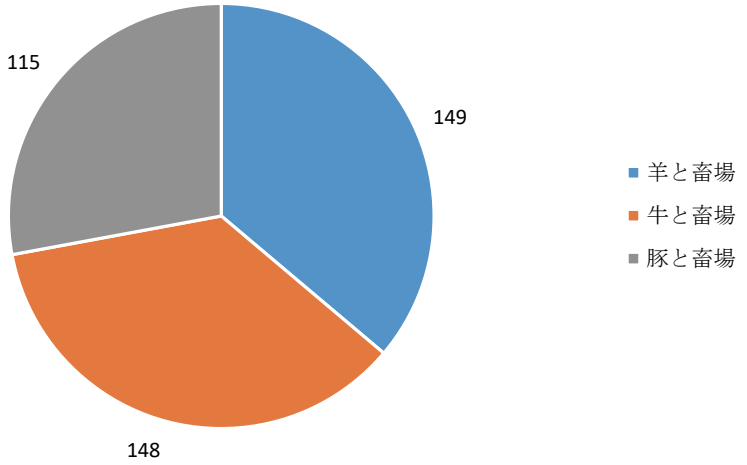




出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019
より作成

前述のとおり、イギリスで最も羊が飼養・と畜されている地域であるイングランドには、179 か所の食肉処理場（羊・牛・豚）が存在している。それらを処理可能な家畜で分類すると、羊の食肉処理場が 149 か所、牛の食肉処理場が 148 か所、豚の食肉処理場が 115 か所となる（図 4)。

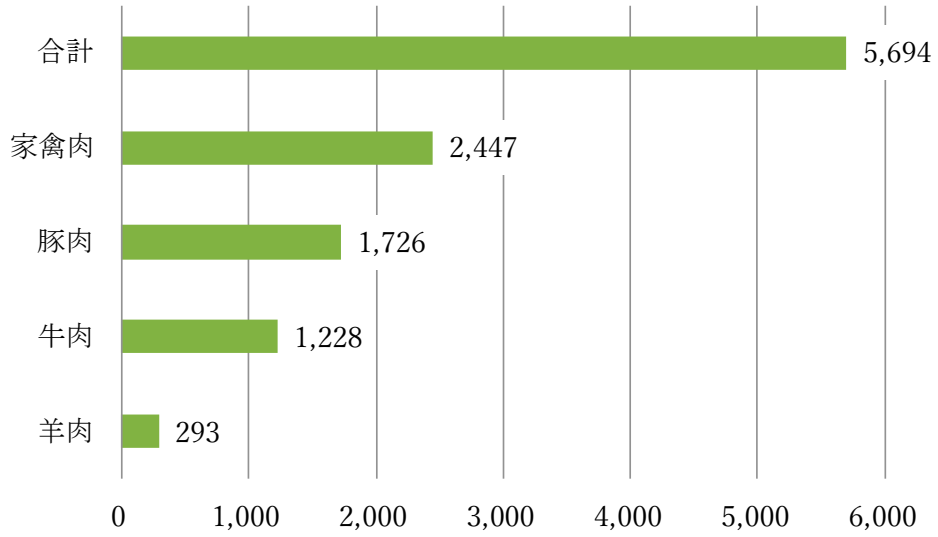
図４　イングランド　食肉処理場数　2018 年　（単位：か所）



出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

イギリスの種類別食肉消費量を見ると（図 5）、家禽肉が最も多く消費されていることがわかり、その量は年間 2,447 千トン（約 43%）である。次に、豚肉の消費量が多く 1,726 千トン（約 30%）、その後、牛肉の消費量が 1,228 千トン（約 22%）、羊肉の消費量が 293 千トン（約 5%）と続く。

図５　イギリス　種類別食肉消費量　2018 年　（単位：千トン）

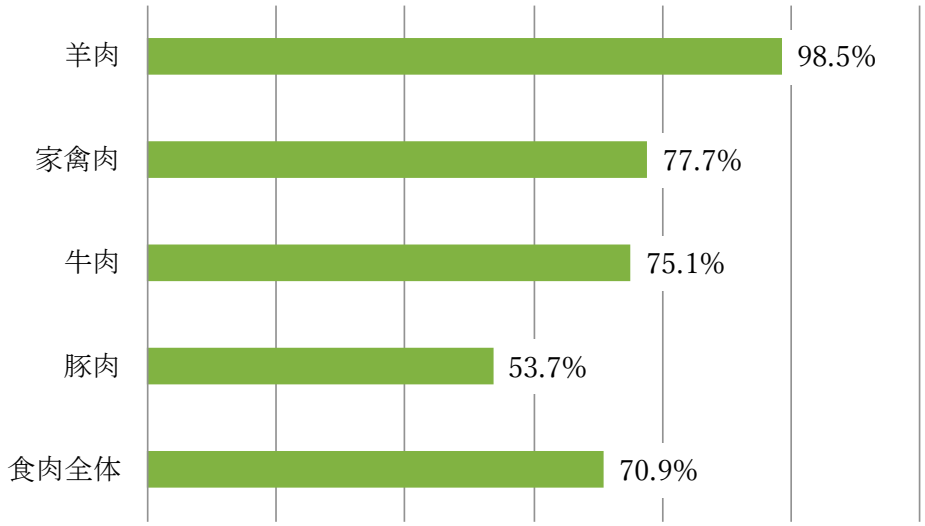


出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

2018 年のイギリスの食肉の自給率は、どの種類の食肉も 100% を下回っている。その中でも羊肉は 98.5% と比較的高く、国内生産量 288.6 千トンに対して、293.2 千トンの消費量と、国内の消費量のほとんどを賄える国内生産量となっている（図 6）。

一方で、豚肉需給量は 53.7% と低い。国内生産量 927 千トンに対して、1,726 千トンを消費しており、その多くを輸入に頼っていることがわかる。

図 6　イギリス　食肉の自給率　2018 年



出典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

(4) 羊肉および豚肉の輸入状況

2018 年のイギリスの羊肉輸入量は 77.5 千トンで、輸入価格は 373.5 百万ポンド（約 542 億円）であった（表 8）。カット方法別では、骨付きカット肉が最も多く 48 千トン、保存方法では冷凍肉が多く、46.1 千トンであった（図 7）。

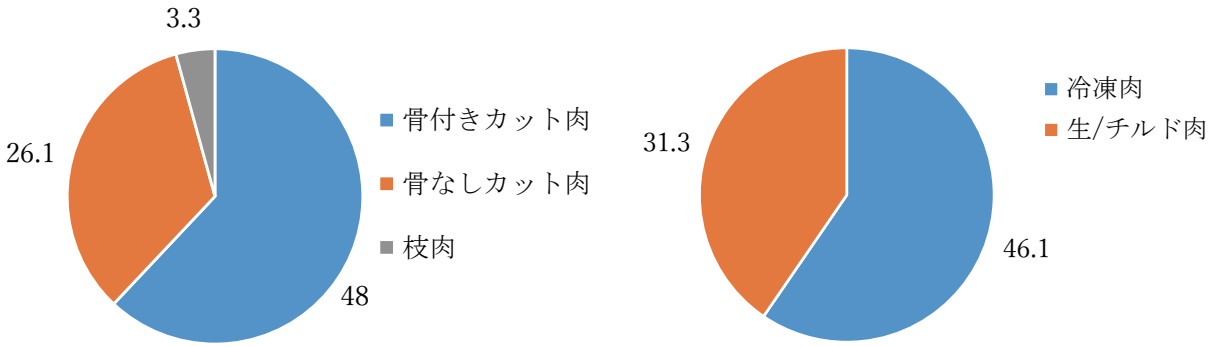
前述のとおり、羊肉はそのほとんどを国内生産で賄っているが、輸入量はそのほとんどをニュージーランドからの輸入が占めている。2018 年のニュージーランドからの輸入量は 50.9 千トンであり、全体の約 66% を占めている（図 8）。

表 8　イギリス　内臓を除く羊肉の輸入　2018 年

項　目	輸入量（千トン）	輸入価格（億円）
生 / 冷凍肉	77.5	542

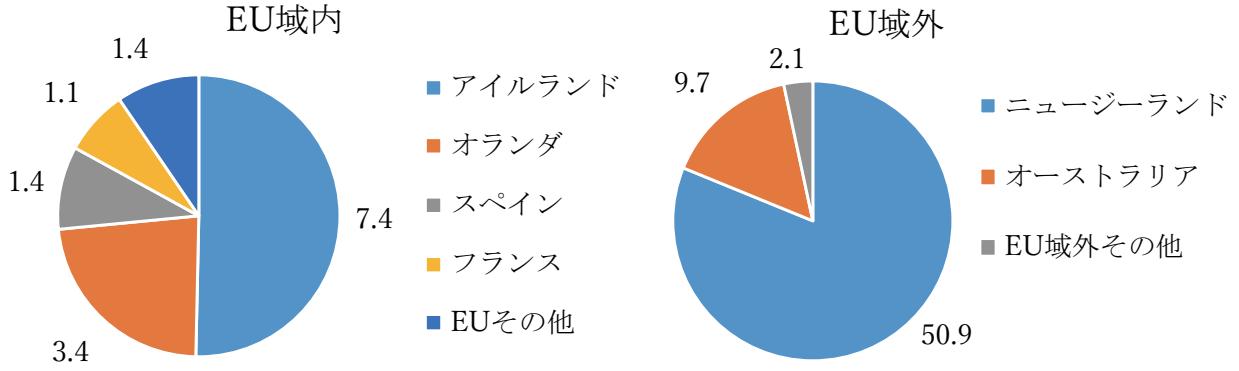
出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

図 7　イギリス　内臓を除く羊肉の種類別輸入量　2018 年　（単位：千トン）



出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

図 8　イギリス　内臓を除く羊肉の輸入元国別輸入量　2018 年　（単位：千トン）



出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

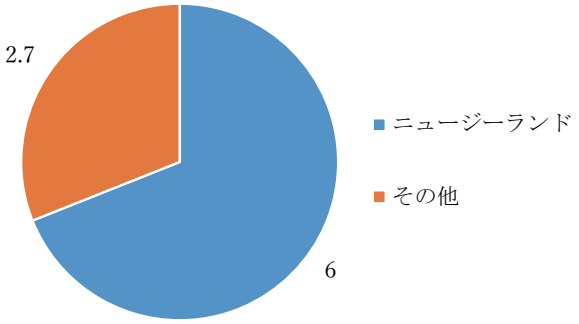
生 / 冷凍羊肉とは別に、羊の内臓の輸入に着目すると、2018 年の輸入量は 8.7 千トン、輸入価格は 14.2 百万ポンド（約 21 億円）であった（表 9）。地域別ではニュージーランドからの輸入がその多くを占めており、2018 年は 6 千トン（約 69%）であった（図 9）。

表 9　イギリス　羊内臓の輸入　2018 年

項　目	輸入量（千トン）	輸入価格（億円）
内　臓	8.7	21

出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

図 9　イギリス　羊内臓の地域別輸入量　2018 年　（千トン）

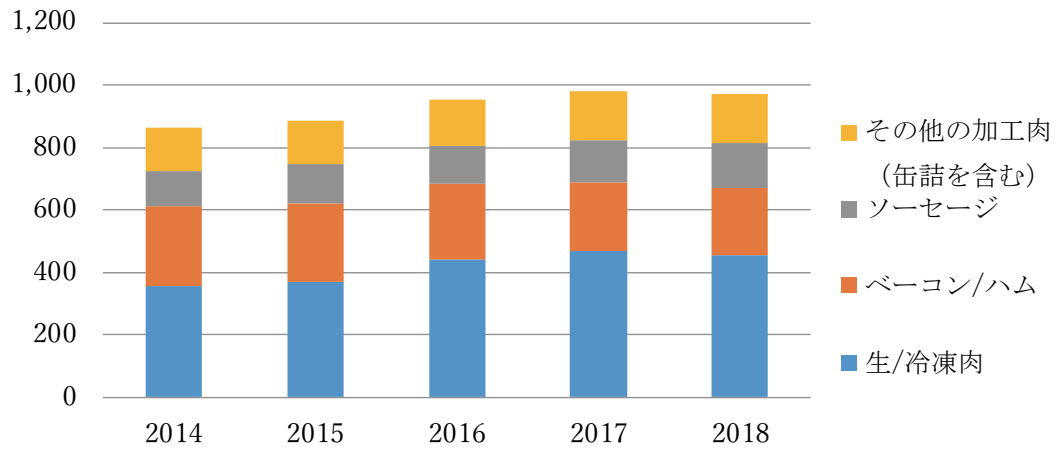


出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

イギリスの豚肉関連製品の輸入量を整理すると（図 10）、継続的に生 / 冷凍肉の輸入量が最も多いことがわかる。2018 年の生 / 冷凍豚肉の輸入量は約 457 千トンであった。次にベーコン / ハムが多く、2018 年の輸入量は約 215 千トン、そしてソーセージが約 142 千トンであった。

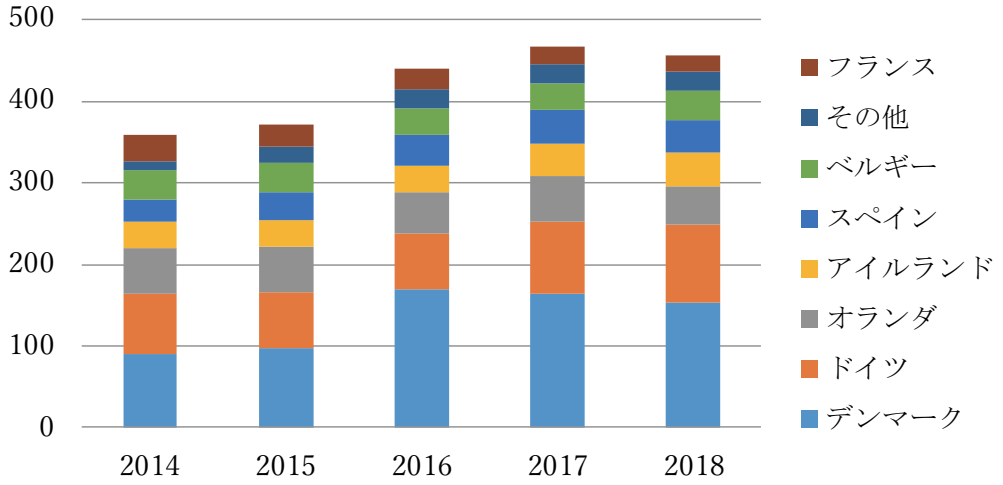
輸入量の最も多かった生 / 冷凍豚肉を輸入元国別に見ると（図 11）、デンマーク、ドイツ、オランダからの輸入が多いことがわかる。それぞれ 2018 年の輸入量は、デンマーク約 152 千トン、ドイツ約 95 千トン、オランダ約 47 千トンであった。

図 10　イギリス　豚肉関連製品輸入量の年次推移　（単位：千トン）



出　典：AHDB (2019). UK pig facts and figures - 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/uk-pig-facts-and-figures-2019　より作成

図 11　イギリス　輸入元国別生 / 冷凍豚肉輸入量の年次推移　（単位：千トン）



出　典：AHDB (2019). UK pig facts and figures - 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/uk-pig-facts-and-figures-2019　より作成

(5) 羊肉および豚肉の輸出状況

2018 年のイギリスの内臓を除く羊肉の輸出量は 83.2 千トン、金額にして 367.6 百万ユーロ（約 467 億円）であった（表 10）。

形態としては骨付きの枝肉として輸出するものが約 3 分の 2 を占めており、また、保存状態は冷凍の状態で輸出するものがほとんどを占めている（図 12）。

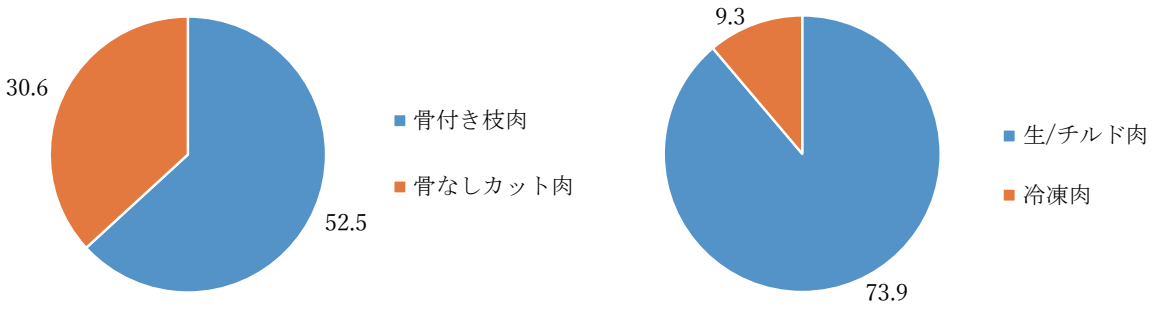
輸出先国としては EU がほとんどを占めており、その中でもフランスが 35.6 千トンと最も多い（図 13）。

表 10　イギリス　内臓を除く羊肉の輸出　2018 年

項　目	輸出量（千トン）	輸出価格（億円）
生 / 冷凍肉	83.2	467

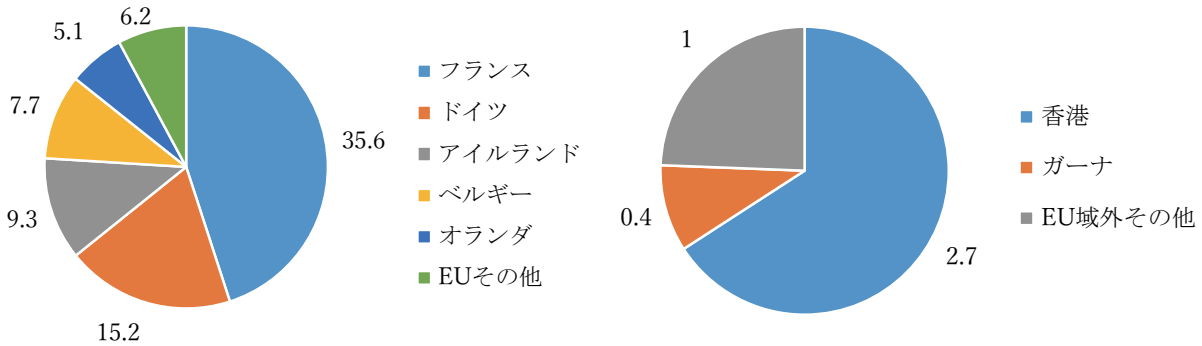
出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

図 12　イギリス　内臓を除く羊肉の種類別輸出量　2018 年　（単位：千トン）



出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

図 13　イギリス　内臓を除く羊肉の輸出先国別輸出量　（単位：千トン）



出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

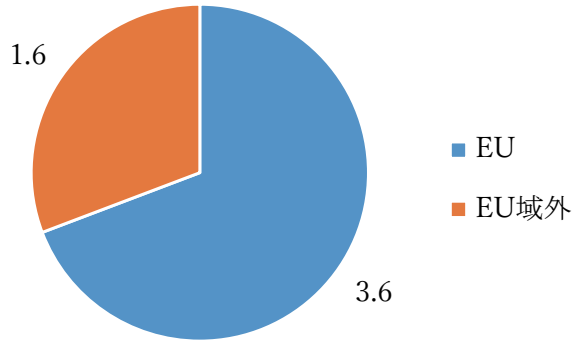
2018 年のイギリスの羊の内臓の輸出量は 5.2 千トンで、金額にして 8.9 百万ユーロ（約 11.3 億円）であった（表 11）。羊の内臓も、羊肉と同様に EU 内への輸出がその約 3 分の 2 を占めている（図 14）。

表 11　イギリス　羊内臓の輸出　2018 年

項目	輸出量（千トン）	輸出価格（億円）
内臓	5.2	11.3

出　典：AHDB (2019). The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

図 14　イギリス　羊内臓の地域別輸出量　（単位：千トン）

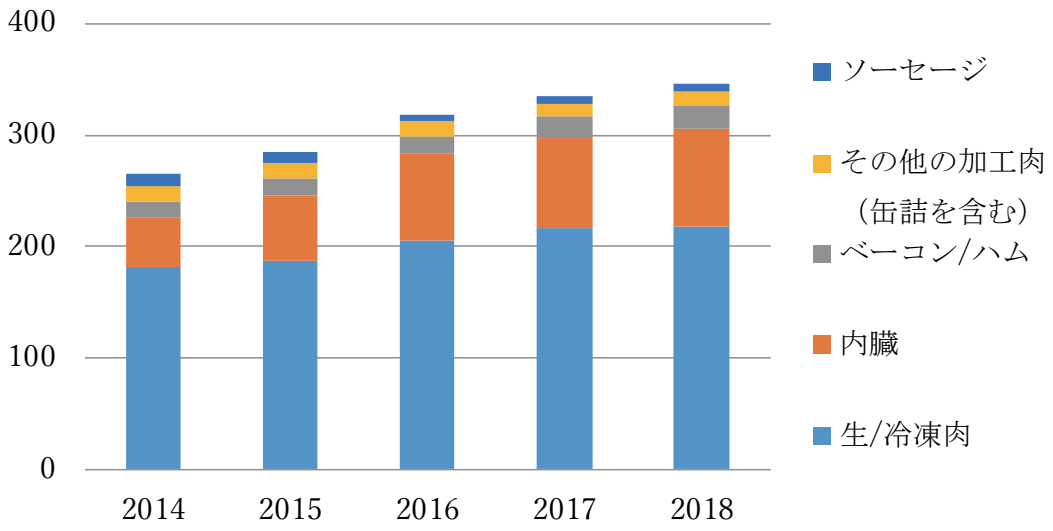


出　典：AHDB（2019）. The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019　より作成

イギリスの豚肉の輸出量を種類別に整理すると（図 15）、そのほとんどを生 / 冷凍豚肉が占めていることがわかる。2018 年の輸出量は、生 / 冷凍豚肉が約 218 トン、内臓が約 88 千トン、ベーコン / ハムが約 21 千トン、ソーセージが約 8 千トン、その他の加工肉が約 11 千トンであった。

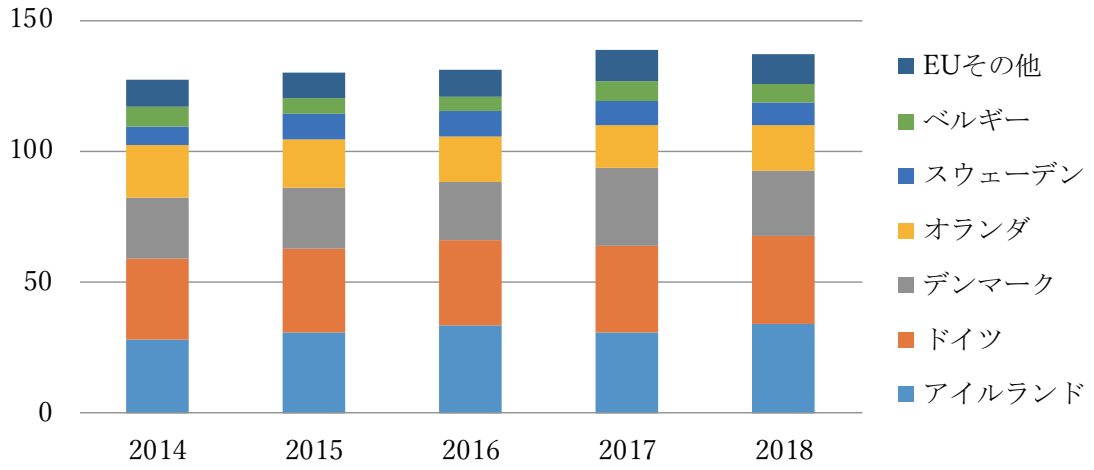
2018 年の生 / 冷凍豚肉の輸出量を地域別に見ると、EU 域内ではアイルランドが約 34 千トン、ドイツが約 33.5 千トンと多いが（図 16）、EU 域外を含めると、中国への輸出が最も多く約 41 千トン（図 17）となっている。

図 15　イギリス　豚肉関連製品輸出量の年次推移　（単位：千トン）



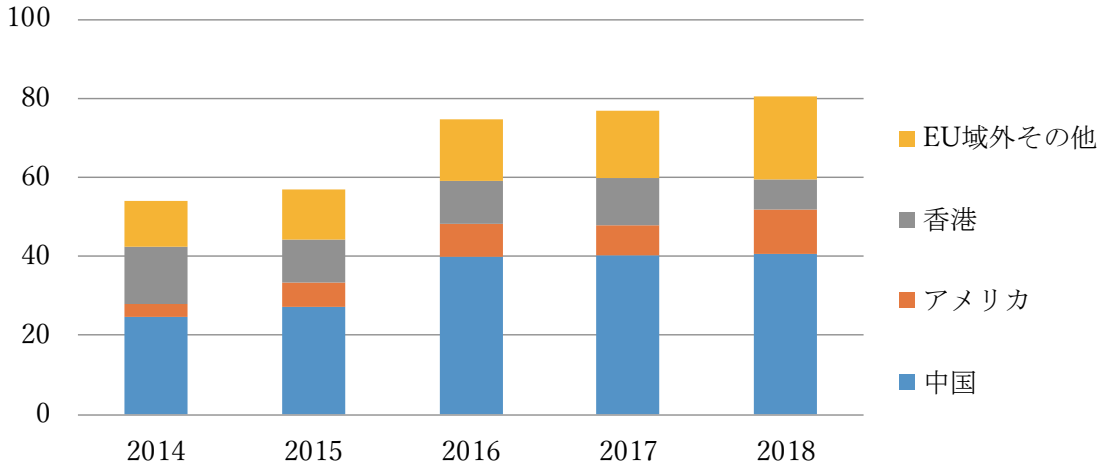
出　典：AHDB（2019）. UK pig facts and figures - 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/uk-pig-facts-and-figures-2019　より作成

図 16　イギリス　EU 域内向け生 / 冷凍豚肉輸出量の年次推移　（単位：千トン）



出　典：AHDB (2019). UK pig facts and figures - 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/uk-pig-facts-and-figures-2019　より作成

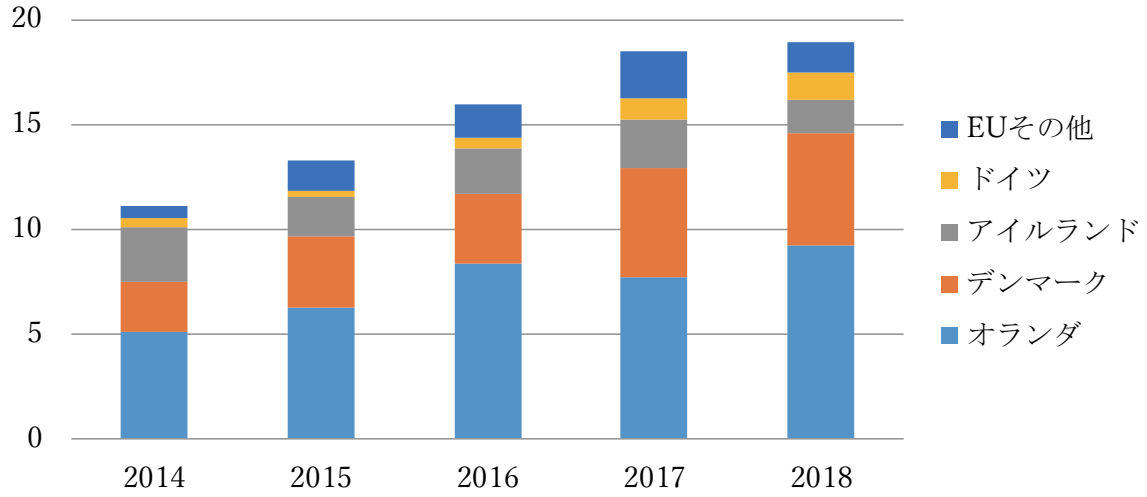
図 17　イギリス　EU 域外向け生 / 冷凍豚肉輸出量の年次推移　（単位：千トン）



出　典：AHDB (2019). UK pig facts and figures - 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/uk-pig-facts-and-figures-2019　より作成

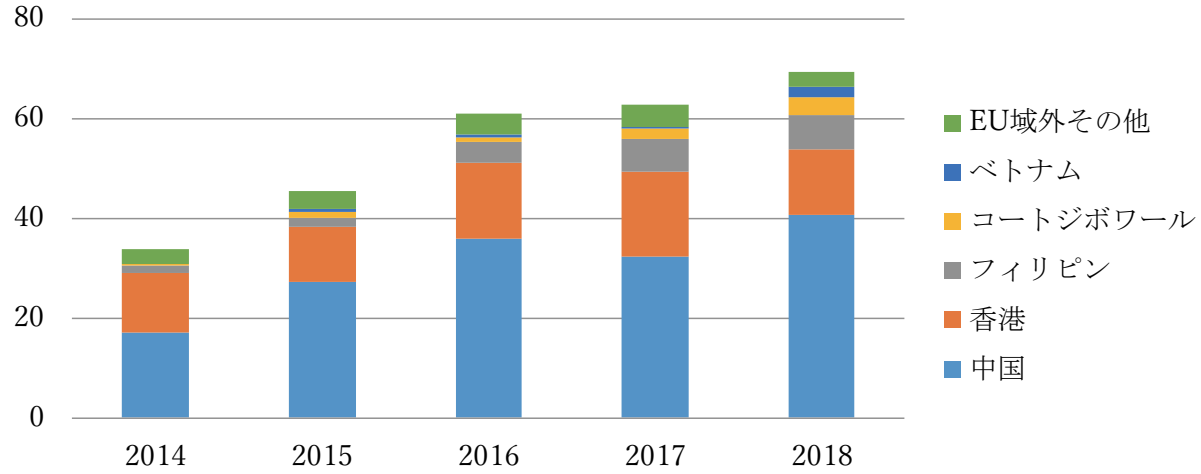
最後に豚の内臓の地域別輸出量推移を見ると、EU 域内ではオランダ向けが約 9 千トンと多いが（図 18）、EU 域外を含めると、中国への輸出量が圧倒的に多く、2018 年では約 41 千トン、次に香港向けが約 13 千トンであった（図 19）。

図 18　イギリス　EU 域内向け豚肉臓輸出量の年次推移　（単位：千トン）



出　典：AHDB (2019). UK pig facts and figures - 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/uk-pig-facts-and-figures-2019　より作成

図 19　イギリス　EU 域外向け豚肉臓輸出量の年次推移　（単位：千トン）



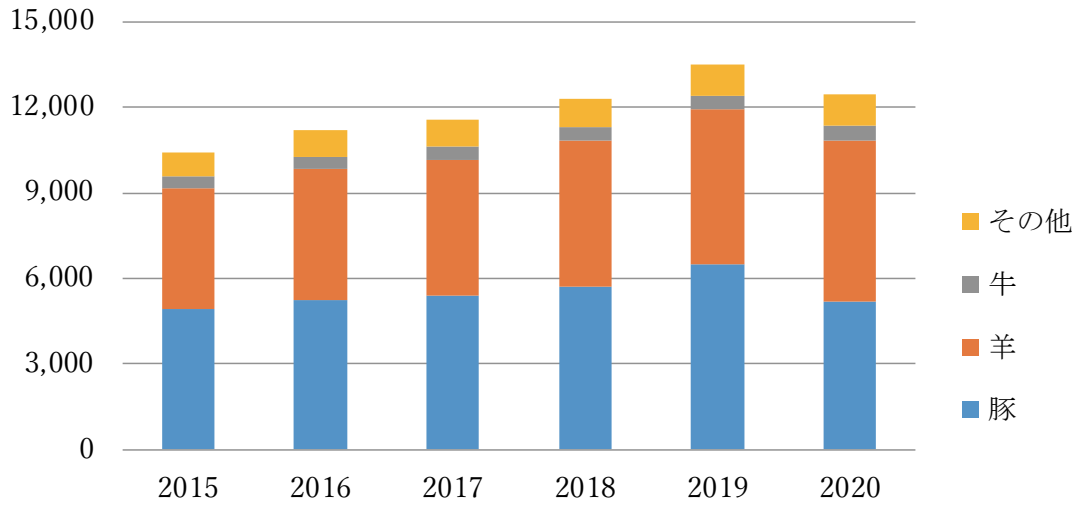
出　典：AHDB (2019). UK pig facts and figures - 2019. Warwickshire: AHDB.
参照先：https://ahdb.org.uk/knowledge-library/uk-pig-facts-and-figures-2019　より作成

3. イギリスの天然ケーシング産業の概況

(1) イギリスの天然ケーシング市場の現状

イギリスの天然ケーシングの市場規模を羊腸・豚腸・牛腸の種別に見ると、概観として市場規模はおよそ 1 億ドル（約 105 億円）程度であること、そのほとんどを豚と羊が占めていること、2019 年までは市場規模は拡大傾向であったが、2020 年にマイナス成長に転じたことなどがわかる（図 20）。

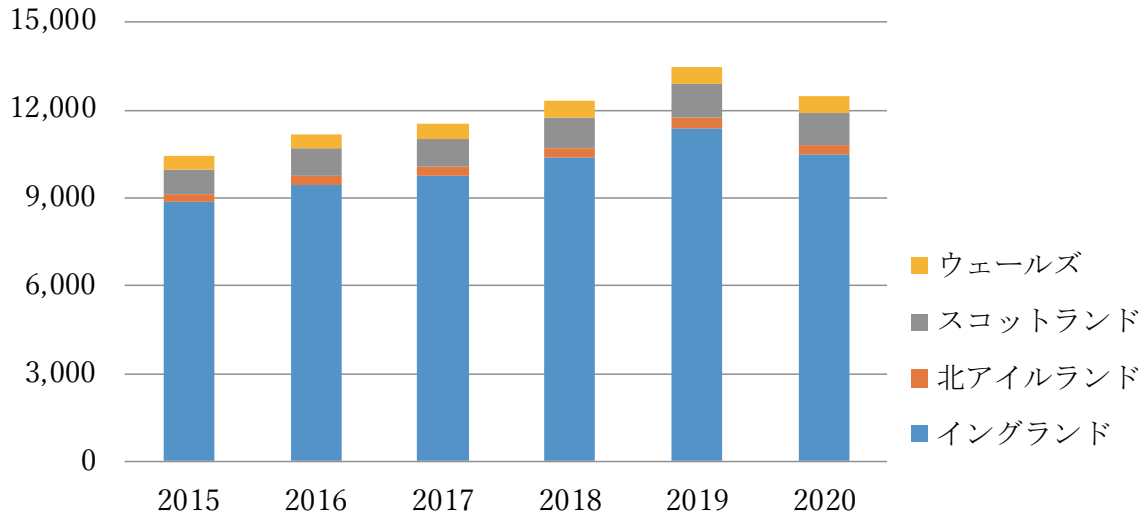
図 20　イギリス 畜種別天然ケーシングの年次市場規模　（販売価格ベース、単位：百万円）



出典：Maia Research（2021）. UK Natural Sausage Casing Industry Market Research Report.
香港：Maia Research　より作成

次に、同数値を地域別に整理すると、そのほとんどをイングランドが占めていることがわかる（図 21）。前述の、羊および豚の飼養頭数および食肉処理施設がイングランドに集中していたことと符合しており、少なくとも天然ケーシング産業の中心地はイングランドであることが推察される。

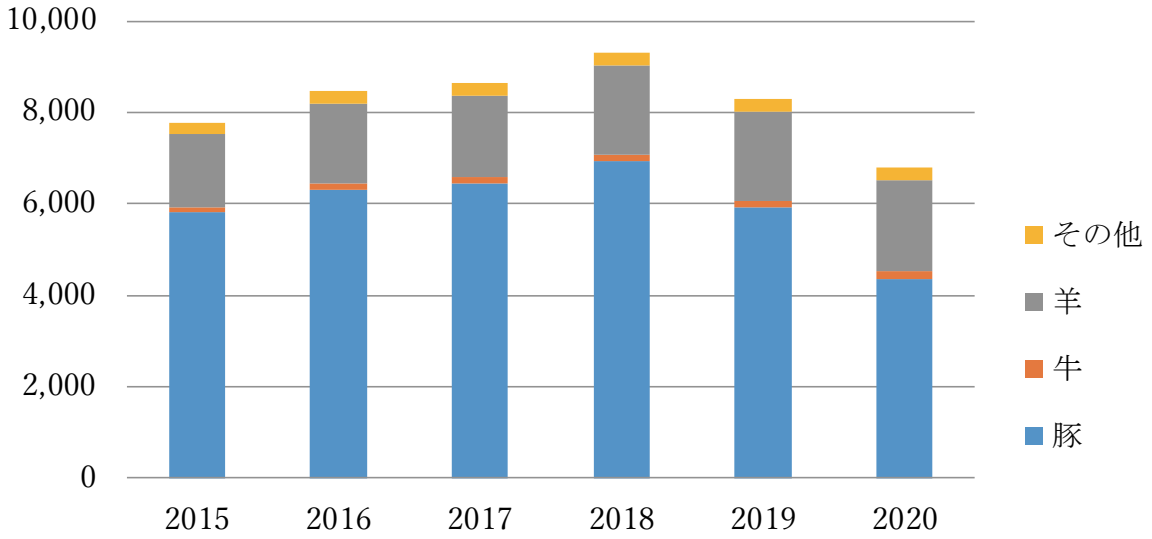
図 21　イギリス 地域別天然ケーシングの年次市場規模　（販売価格ベース、単位：百万円）



出典：Maia Research（2021）. UK Natural Sausage Casing Industry Market Research Report.
香港：Maia Research　より作成

次に、販売量ベースで見ると、2018 年まで増加傾向であったものが 2019 年から減少傾向に転じているが、特に畜種別では、最も大きなシェアを有する豚の販売量の減少がその要因となっている。販売価格と販売重量の割合からすると、羊腸由来のケーシングの重量当たり価格は豚腸由来のものに比べ高い値段で取引されていることがわかる（図 22）。

図 22　イギリス　種類別天然ケーシング販売量の年次推移　（単位：トン）



出典：Maia Research（2021）. UK Natural Sausage Casing Industry Market Research Report.
香港：Maia Research　より作成

上記の各図で参照したとおり、2020 年には主に新型コロナウイルスの影響で市場規模が縮小している。具体的には、表 12 で示す 4 つの分野で影響を及ぼしていると考えられる。

表 12　新型コロナウイルスの主な影響

需要の減衰	イギリスの新型コロナウイルスの影響は特に深刻で、外出制限が出されている状況である。稼働停止する工場も多く、ソーセージ加工も影響を受けている。そして、ソーセージ製造量が減少したことにより、天然ケーシングの需要量が減少している。 イギリスでは変異種の流行もあり、状況は悪化していく可能性がある。
物流の混乱	多くの国が人と物の移動を制限していることから、様々なレベルで物流の混乱が起きている。
中小企業の経営状況悪化	中小企業は特に資金繰りに強い影響を受けており、その結果として、業界の中小企業のシェア低下と、上位企業の寡占が進むと考えられる。
人的労働への依存軽減	労働者市場の状況変化に対応できるよう、加工の自動化と多様な技術を保有する労働者の雇用を進めている。 それに伴って、加工機械の標準化や物流の高機能化、サプライチェーン全体のリスク管理強化に注目が集まっている。

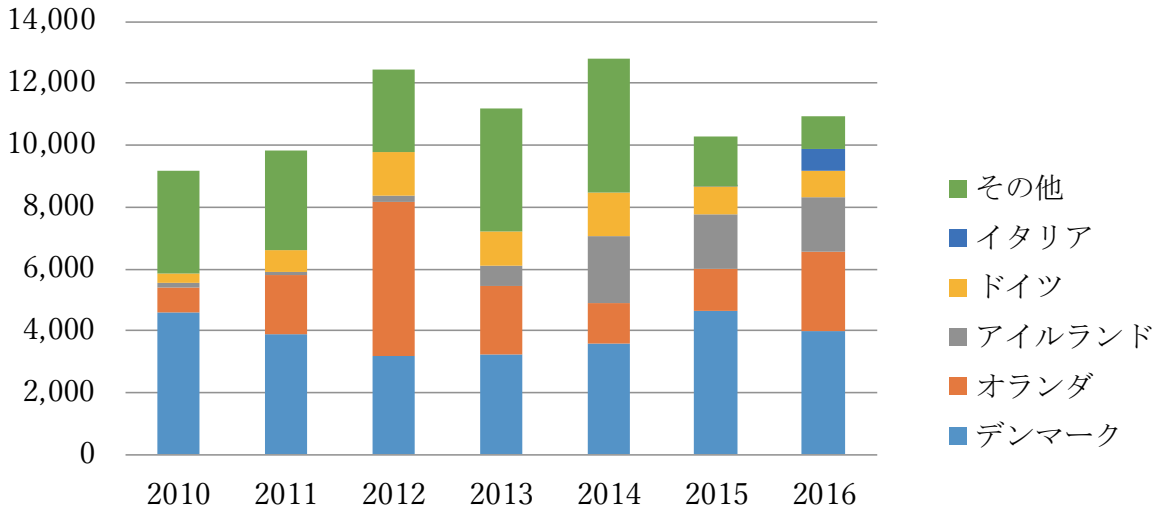
出典：Maia Research（2021）. UK Natural Sausage Casing Industry Market Research Report.
香港：Maia Research　より作成

税関が公開している実行関税率表（2021 年 1 月 1 日版）によると、天然腸の中でもソーセージケーシング用のものは、HS コード 0504.011 と定められている。そのため、天然ケーシングを含む HS コード 0504「動物（魚を除く。）の腸、ぼうこう又は胃の全形のもの及び断片（生鮮のもの及び冷蔵し、冷凍し、塩蔵し、塩水漬けし、乾燥し又はくん製したものに限る。)」のイギリスにおける輸出入量について整理した。

2018 年の輸出量に関して、デンマーク向けが約 4,000 トンと最も多く、次にオランダが約 2,500 トンと続く。また、2010 年から継続的にこの二国への輸出が多いことがわかる（図 23）。

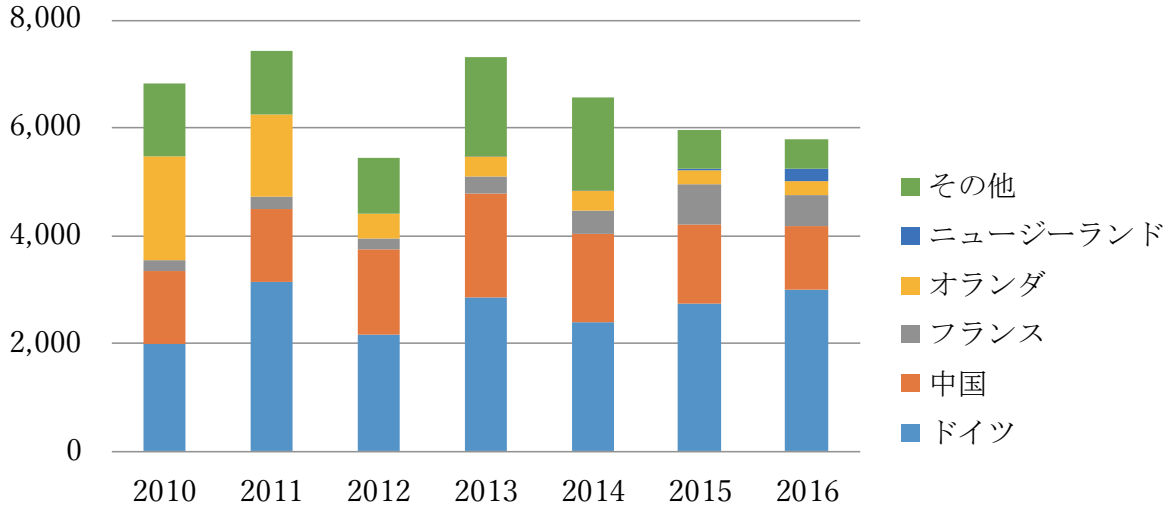
2018 年の輸入量に関して、ドイツからの輸入量が約 3,000 トンと最も多く、次に中国からの輸入が約 1,000 トンと続く（図 24）。

図 23　イギリスからの腸・膀胱・胃の輸出量の年次推移　（単位：トン）



出典：USDA GATS

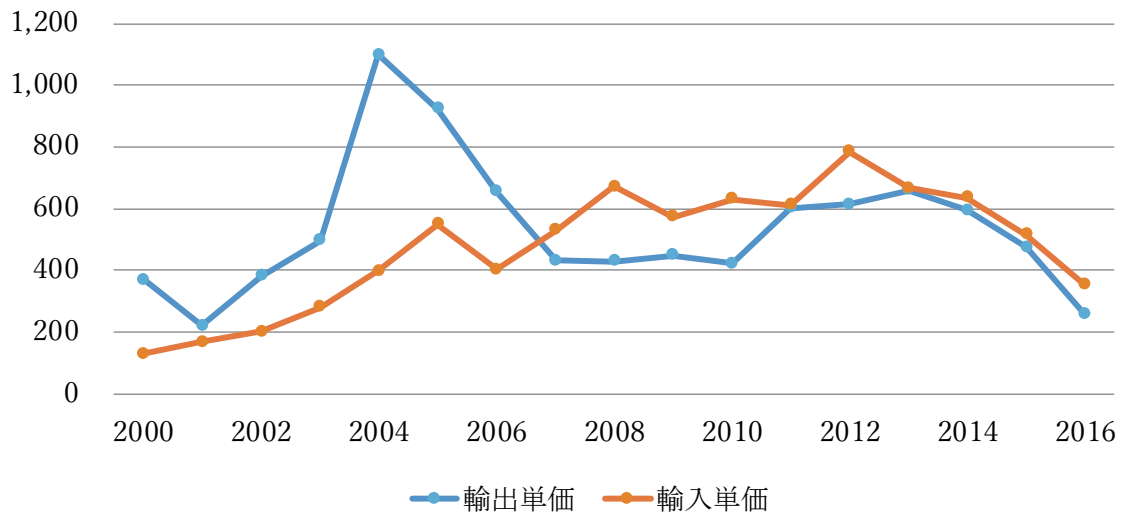
図 24　イギリスへの腸・膀胱・胃の輸入量の年次推移　（単位：トン）



出典：USDA GATS

次に、1kg 当たりの単価を見ると、長期的に 1kg 当たり 4 ～ 6 ドル（約 420 ～ 630 円）程度の水準で推移しており、2013 年ごろから 2016 年にかけて輸出・輸入ともに単価が下がっている（図 25）。

図 25　イギリスの腸・膀胱・胃の輸出入単価の年次推移　（単位：円 /kg）

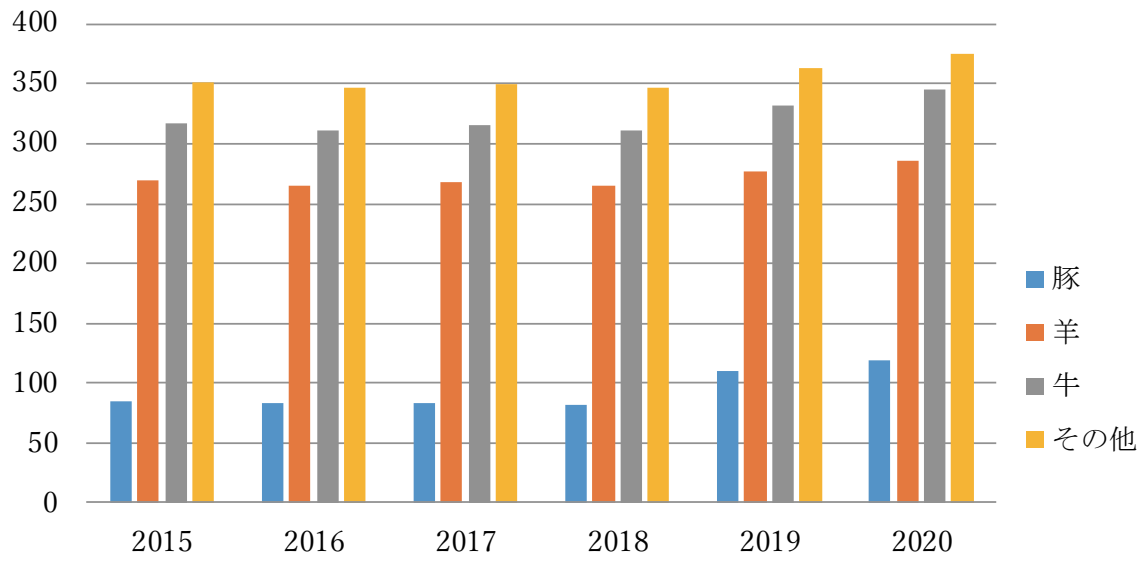


出典：USDA GATS

イギリスにおける天然ケーシングの取引単価の推移を見ると、1 トン当たり、豚腸ケーシングが約 8,000 ～約 11,000 ドル（約 84 ～ 115.5 万円）、羊腸ケーシングが約 25,000 ～約 27,000 ドル（約 262.5 ～ 283.5 万円）、牛腸ケーシングが約 33,000 ～約 36,000 ドル（約 346.5 ～ 378 万円）で推移していることがわかる（図 26）。

また、後述の有識者へのインタビューからも伺えるとおり、BREXIT による先行きの不透明感が本格化した 2018 年から全体的に価格が上昇していることがわかる。

図 26　イギリス　種類別天然ケーシング単価の年次推移　（単位：万円 / トン）



出典：Maia Research（2021）. UK Natural Sausage Casing Industry Market Research Report.
香港：Maia Research　より作成

さらにイギリスに本拠地を置く以下の４企業が自社 EC サイトにて販売している羊腸および豚腸ケーシング各約 30 種を基に価格帯調査を行った（表 13）。メートル当たり単価で見ると、羊腸・豚腸いずれにおいても中央値は約 0.2 ポンド /m であったが、全体としては豚腸ケーシングの方がやや高価格帯に位置している（図 27）。

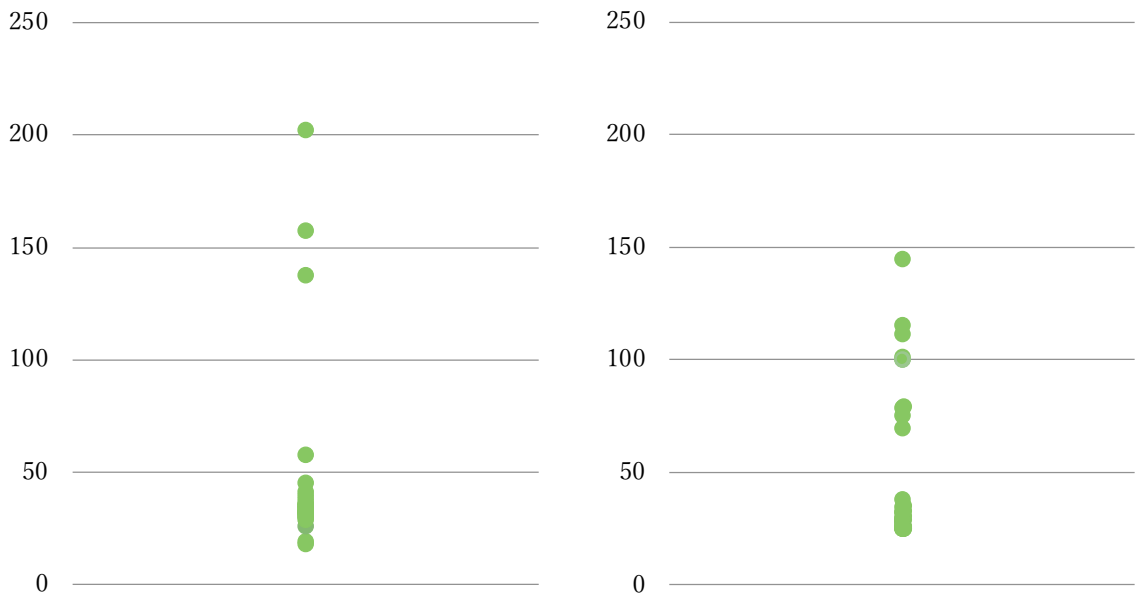
一方で羊腸ケーシングには、極端に値が大きい外れ値が多く、品質や規格によって高価格帯のものが存在していることがわかる。

一般に、羊腸ケーシングは豚腸ケーシングよりも口径が小さいため、重量ベースで測定すると羊腸の方が高単価になることが推察される。

表 13　価格調査対象企業

会社名	URL	参照日
Breck Casings Ltd	https://www.sausage-casings.co.uk/shop	2021/1/29
SCOBIES DIRECT	https://www.scobiesdirect.com/Natural-Sausage-Casings	
Weschenfelder Direct	https://www.weschenfelder.co.uk/sausage-casings-skins.html	
Tongmaster SEASONINGS	https://www.tongmaster.co.uk/sausage-casings-skins	

図 27　羊腸（左）および豚腸（右）ケーシングの EC サイトでの販売価格帯　（単位：円 /m）



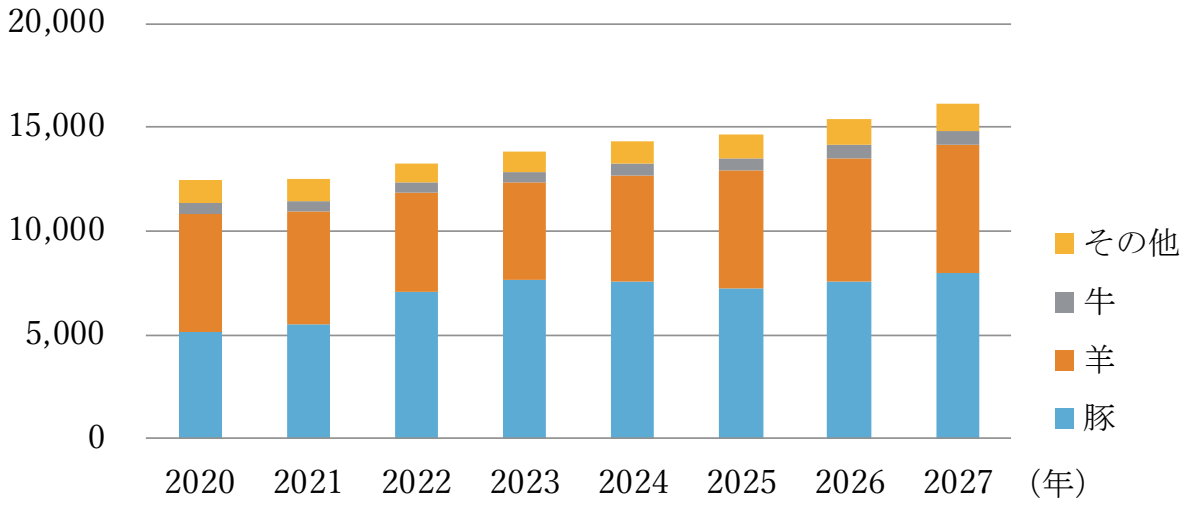
出典：表 13 参照

(2)天然ケーシング市場の展望

2021 年以降の天然ケーシング市場は、中期的に拡大傾向であると予測されている。また、2027 年は 1 億 5 千万ドル規模の市場に成長すると予測されている（図 28）。

後述の有識者インタビューでも触れるが、イギリス国内における天然ケーシングを用いたソーセージの需要は非常に高いという。さらに、羊のと畜頭数は豚よりも多いにも関わらず、その内臓肉の輸出量は豚に比べ低調であることから、羊腸ケーシングの輸出拡大が進むことで市場が成長する可能性もあると考えらえる。

図 28　イギリスの天然ケーシング市場規模予測　（単位：百万円、2020 年は実績）



出典：Maia Research（2021）. UK Natural Sausage Casing Industry Market Research Report.
香港：Maia Research　より作成

第2章　イギリスの天然ケーシング製造の概況

1. 主要な事業者

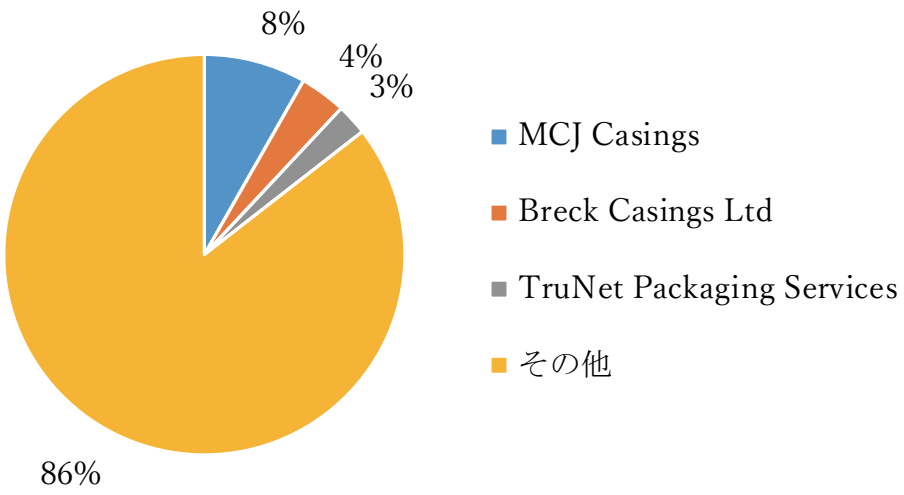
(1) メーカー

イギリスの有識者へのインタビューによると、イギリスの天然ケーシング製造はそのほとんどを他国に頼っており、イギリスに本拠地を置く天然ケーシングメーカーの存在感はあまり大きくないとのことであった。

しかしながら、その中でも、イギリス天然ケーシング産業で存在感を持つメーカーとしては、Van Hessen、MCJ casings、Breck Casings が挙げられたが、同時に語られたのは中小のメーカーも数多くおり、その成長可能性も高いということであった（図 29、表 14）。

Van Hessen とイギリス天然ケーシングメーカーの売上高は 10 倍以上であり、また、MCJ Casings の売上高は 16.5 億円程度であることから、イギリスの主要メーカーの存在感が国際的には大きくないと考えられる。

図 29　イギリスの天然ケーシング業界における上位 3 社の市場シェア　2020 年



出典：Maia Research（2021）. UK Natural Sausage Casing Industry Market Research Report.
香港：Maia Research　より作成

表 14　イギリス国内で事業を行う主な天然ケーシングメーカーの概要

本国	社名	売上	概要
オランダ	Van Hessen（オランダ）	178 百万ユーロ（約 226 億円）2018 年	1902 年に創業された、オランダに本拠地を置く大手天然ケーシングメーカー。羊腸・豚腸・牛腸を取り扱い、パイピングも行っている。BRC、IFS、FSCC などの GFSI 認定スキームの承認を得ている。イギリスにも工場を有している。
イギリス	MCJ Casings	※13 百万ユーロ（約 16.5 億円）2020 年	1983 年に設立された家族経営の企業。BRC 認定を取得している。取り扱い品目は、羊腸・豚腸・牛腸だけでなく、人工ケーシングも含まれ、パイピングも行う。
	Breck Casing	不明	40 年以上の歴史を持つソーセージケーシングメーカーであり、その HP では様々なケーシングが販売されている。取り扱い品目は、羊腸・豚腸・牛腸で、パイピングも行う。
	Trunet Packaging Services Ltd	※1 百万ユーロ（約 1.3 億円）2019 年	2006 年に設立された企業。取り扱い品目は豚腸・羊腸で、パイピングも行う。天然ケーシングの他にも、人工ケーシングや特許取得済の肉網なども製造している。

出典：Factiva、各社 HP　より作成
※ 0.8846GBP/EUR で換算

(2) 卸売業者・商社

表 15　イギリスの主な天然ケーシングの卸売業者

社名	売上	概要
Yearsley Food	86 百万ユーロ（約 109 億円）2019 年	1952 年に設立された。イギリスの有識者へのインタビューの中で、天然ケーシングの主要な卸売業者として挙げられた。食肉製品だけでなく、魚介類や野菜等の卸売も行う総合食品流通業社。
Innovative Food Ingredients Ltd	3.4 百万ユーロ（約 4.3 億円）2019 年	1945 年に設立された。取り扱い製品は、天然ケーシングを含む食肉加工品を中心。当社 HP では、それら製品を購入することができる EC サイトがある。
Alderson Ingredients Ltd	1.3 百万ユーロ（約 1.6 億円）2019 年	1972 年に設立された。Innovative Food Ingredients と同様に、HP に EC サイトを備えており、天然ケーシングを含む食肉加工品を中心とした当社製品を購入することができる。

出典：各社 HP、D&B Hoovers、Maia Research（2021）. UK Natural Sausage Casing Industry Market Research Report. 香港：Maia Research　より作成

2. 認証制度

後述の有識者インタビューで語られた、天然ケーシング製造に関連する品質保証等の制度について整理した（表 16）。

表 16　食品品質保証に関する主な認証制度

GFSI	Global Food Safety Initiative（GFSI）は、世界的な食品の流通・製造のネットワークである The Consumer Goods Forum 傘下で 2000 年に発足した組織であり、食品安全の推進に関わる活動を行っている。 代表的な活動として、食品安全スキームのベンチマーキング、すなわち、各種存在している食品安全関連の認証制度の同等性評価を行っている。 Carrefour などの欧米を代表する食品企業が、GFSI が認証した食品安全スキーム取得済の商品を積極的に受け入れることで、認証の重複取得によるコストを削減する。
BRC	British Retail Consortium（BRC）は、イギリスの小売業界団体。そのメンバーの売上高が、イギリスの小売業界の総売上高の 70% を占める。 BRC が運用している Global Standard for Food Security は、GFSI 認証スキームであり、イギリスの有識者のみならず、欧州他国の有識者からも、食品の品質保証に関する認証制度として名前が挙がるなど、広く認知されている。 そのスキームのカバー範囲は、非常に広く、イギリス天然ケーシングの有識者とのインタビューの中では、「天然ケーシング製造に係る全て」がカバーされていると話された。
IFS	International Featured Standard（IFS）は、2003 年に International Food Standard として設立されたのち、その規格範囲を食品以外に展開している。 IFS が運用している Food Standard も BRC 同様 GFSI 認証スキームである。このスキームは、食品の安全と製造プロセスおよび製品の品質に焦点を当てており、また、顧客に安全性をアピールできることに加えて、リスクベースアプローチをとっているため、個々のリスク評価が可能になる等のメリットが挙げられている。 有識者へのインタビューの中では、小売店や消費者から求められる認証の 1 つであり、IFS 認証を取得することでトレーサビリティに関する取組みを個客にアピールすることができるとのことであった。
SALSA	Safe and Local Supplier Approval（SALSA）は、イギリスの中小企業向けに食品安全保障やサポートを提供することを目的に設立された。認証取得はイギリスに拠点を置くメーカーに限られており、実質的には、中小企業向けの BRC の代替的な認証として機能していると考えられる。

出典：各 HP 等

第3章　イギリスからの天然ケーシング輸入関連規制等

1．日本の食肉加工品の輸入関連法令の概況と現状

(1)食肉加工品の輸入関連法令の概況

天然ケーシングを含む食肉加工品を輸入する際に特に確認が必要と考えられる法令は以下の２つである。

① 食品衛生法

② 家畜伝染病予防法

結論として、イギリスからの天然ケーシングの輸入は、反すう動物由来、豚由来いずれについても、家畜伝染病予防法の定める指定検疫物に求められる措置を履行することができないため、執筆時点においては不可能と考えられる。しかしながら、業界の有識者への聞き取りを通して、今後天然ケーシングのイギリスからの輸入が再開される可能性があることを踏まえ、各法令の主な留意点について以下で明らかにしていく。

① 食品衛生法

同法第 27 条に、「販売の用に供し、又は営業上使用する食品、添加物、器具又は容器包装を輸入しようとする者は、厚生労働省令で定めるところにより、その都度厚生労働大臣に届け出なければならない。」と定められている。この定めにより、販売目的で輸入されるものは、厚労省の指定窓口に食品等輸入届出書と別途必要書類を届け出る必要がある。審査および検査の結果、問題がなければ食品等輸入届出済証を受領し、通関手続きへ進む。

② 家畜伝染病予防法

同法第 37 条に、「次に掲げる物であって農林水産大臣の指定するもの（以下「指定検疫物」という。）は、輸出国の政府機関により発行され、かつ、その検疫の結果監視伝染病の病原体を拡散するおそれがないことを確かめ、又は信ずる旨を記載した検査証明書又はその写しを添付してあるものでなければ、輸入してはならない。」と、指定検疫物について必要な措置が明記されている。

偶蹄類の動物および馬の臓器は指定検疫物に指定されているため、羊腸、豚腸および牛腸はいずれも指定検疫物となる。

指定検疫物の輸入に関する検査項目や検査証明書の記載事項は、事前に輸出国と日本の間で「家畜衛生条件」として取り決められることとなっている。

(2)イギリスからの天然ケーシング輸入に関する法規制等の現状

ケーシングの輸入に係る条件は、「日本向けに輸出される天然ケーシングの家畜衛生条件」において、牛、めん羊及び山羊（反すう動物）由来の天然ケーシング及び豚由来の天然ケーシングに分けて定められている。

牛、めん羊及び山羊由来の天然ケーシングに関して、「輸出天然ケーシングは、別添のリストに掲載されていない国で生まれ、かつ、飼養された反すう動物に由来するものでなければならない。」

とされており、執筆時点ではイギリスはこの「別添のリスト」に掲載されているため、牛、めん羊及び山羊由来のケーシングのイギリスからの輸入はできない。

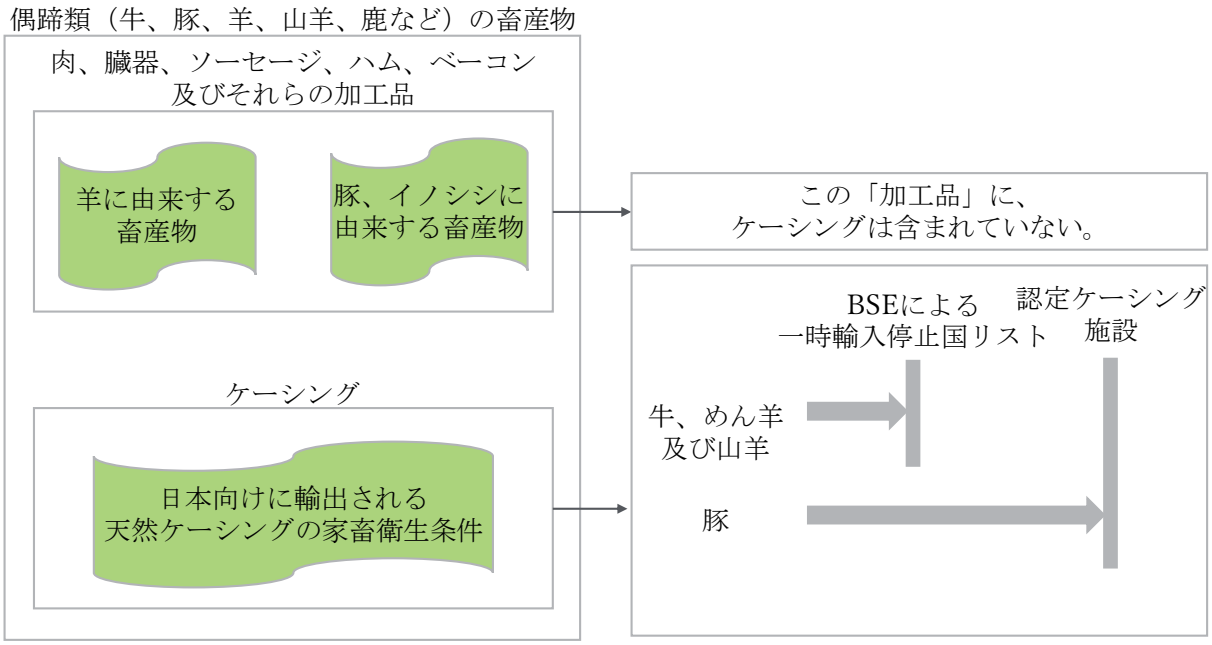
他方、豚由来の天然ケーシングに関しては、動物の出生・飼養国に関わりなく、その他の条件を満たせば輸入は可能である。

双方の天然ケーシングに共通する条件として、「輸出天然ケーシングは以下の条項を満たすものとして、輸出国の管轄当局によって認定された施設（当局監督の下で管理されている施設を含む。以下同じ。）（以下「認定ケーシング施設」という。）でのみ加工及び保管されたものでなければならない。」とされている。輸出国の家畜衛生当局は、認定ケーシング施設について、事前に日本の家畜衛生当局（農林水産省消費・安全局動物衛生課）に通知することが規定されているが、執筆時点では、動物衛生課は英国から通知を接受していない。

したがって、牛、めん羊及び山羊由来のケーシングに関してはまずイギリスからの輸入が認められて、動物検疫所の HP に記載の「Countries（regions）on temporary import suspension associated with the occurrence of Bovine Spongiform Encephalopathy」*からイギリスが削除されることが必要となる。これに加えて、いずれの動物の由来のケーシングについても、イギリス内のケーシング施設が日本の家畜衛生条件を満たした上でイギリス政府によって認定を受け、その旨が日本側に通知されれば、家畜衛生に関する法規制上はイギリスからの輸入が可能となる。

＊ https://www.maff.go.jp/aqs/english/news/bse.html

図 30　日本の家畜衛生条件の整理



また、天然ケーシングの輸入の関税については、いずれの国からのものについても無税となっている。

2. イギリスの特定危険部位（SRM）関連規制

イギリスの天然ケーシング業界の有識者へのインタビューを通じて、2021 年 1 月時点では、法規制に関して BREXIT の影響は大きく出ていないということがわかった。したがって、イギリスは天然ケーシングに関する規制として EU 規則に準拠しているものとして、以下に関連する EU 規則の概要を示す。

結論として、イギリスは法規制として回腸を SRM として取り扱わないが日本では回腸は SRM となる。そのためイギリスから天然腸の輸入が可能になった場合には、イギリスでは天然腸は一般的に回腸を含んでいる可能性があるため、日本向けに輸出される天然腸に関しては追加の措置を求めることが必要になる可能性がある。

執筆時点では、EU では SRM に羊の回腸は含まれていないと考えられるが、日本では SRM の範囲は「12 か月齢超の頭部（扁桃を含み、舌、頬肉及び皮を除く。）及び脊髄並びに全月齢の脾臓及び回腸」と決められている。

SRM の取り扱いなどを規定している主な規則として、EC 規則 999/2001 を取り上げる。本規則第 8 条の中で SRM の除去が定められており、附属書 5.1.(b) にて具体的に羊の SRM が定義されている。この SRM の定義は、2018 年 7 月の改訂において、特に BSE 感染力の高い部位のみに絞ることが適切と示され、現在では主に脳と脊髄が SRM に指定されており、回腸は含まれていない。

一方、日本の厚生労働省の HP「牛海綿状脳症（BSE）について」*に食品安全委員会への諮問状況が掲載されており、その「プリオン評価書　英国から輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓に係る食品健康影響評価,（2018）, 食品安全委員会」によると、イギリスから輸入されるめん羊及び山羊の肉及び内臓については、「輸入禁止」から「SRM の範囲を、12 か月齢超の頭部（扁桃を含み、舌、頬肉及び皮を除く。）及び脊髄並びに全月齢の脾臓及び回腸とし、SRM を除去したものを輸入」と記されている。

＊https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/shokuhin/bse/index.html

第4章　天然ケーシング輸入の現状と見通し

1. 日本の天然ケーシング輸入の現状

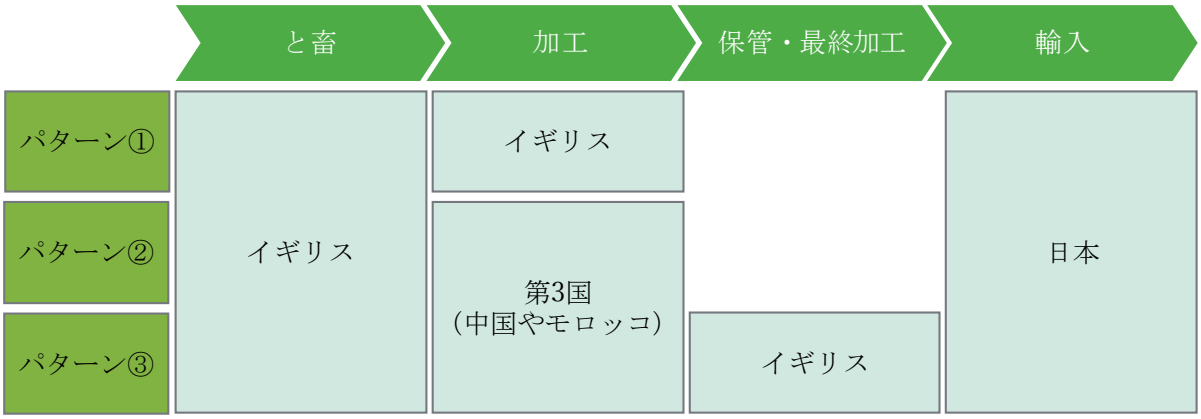
現在の天然ケーシングの輸入状況の特徴としては、中国への高い依存度である。統計上は中国産の天然ケーシングは約 61% となっているものの、オーストラリア産やニュージーランド産の天然ケーシングが中国を経由して輸入されるものも含めると、中国からの積み出し分は約 95% になる。

また、中国から輸入される天然ケーシングは選別・塩蔵されており、それを日本の専門業者がパイピングなどの加工を行ってからソーセージメーカーなどに販売するということが取引慣行になっている。

2. イギリスからの天然ケーシング輸入再開への見通し

安定供給維持のため、イギリスからの輸入ラインを確保しようとした場合、図 31 の 3 つのパターンが考えられる。

図 31　イギリス産天然ケーシングの輸入パターン



イギリスの羊に由来する畜産物に関して、輸出証明プログラム（以下、「EVP」という。）が平成 31 年 1 月 9 日に適用されることとなった。この EVP の対象に羊の内臓は含まれているが、加工品であるケーシングは含まれていない。仮に EVP にケーシングを含めることが可能になれば、上図のパターン①での輸入が一歩前進することになる。

BSE の要因となる SRM には羊の回腸は含まれているが、ケーシングに用いる小腸は含まれていない。今回行った国内有識者へのインタビューによると、EVP にケーシングが含まれるためには「輸入時のケーシングから回腸が確実に取り除かれていることを証明することが必要」とのことであったが、技術的に難しいものではないので、あとは当局の決定の問題であるとのことであった。

その後、イギリス国内の天然ケーシング加工施設が認定を取得する必要があるものの、こちらはあまり大きな障壁にはならないとのことである。

一方、図 31 のパターン②および③による輸入を実現させるためには、イギリス当局である DEFRA（Department for Environment, Food and Rural Affairs）が加工国である第三国の衛生認定をしなければいけないため、難しいのではないかとの発言があった。

また、EVP にケーシングが含まれるよりも、BSE 関連の規制がクリアになる方が早いのではないかとのことであり、牛肉に関する BSE 関連の規制の見直しについて注視する必要がある。

第5章　現地有識者へのインタビュー

今回の調査にあたり、イギリス天然ケーシング産業の有識者２名にインタビューを行った。数値などに不確実性はあるが、有識者の見解としてインタビュー内容をそのまま記載する。

１. 現地有識者①

(1) 面談者：Mr. F. R

ロンドンを中心に営業展開する Allens of Mayfair という高級精肉店のセールス担当を経て、イギリスの Birtwistles Catering Butchers（ケータリングも行う食肉加工メーカー）にて８年間勤務し、営業部長職を務める。

(2) インタビュー概要

■ 特徴と品質

一般的な天然ケーシングの特徴と同様に色や形にバラツキがあることは前提として、イギリスならではの特徴として「破れにくい」（豚腸と考えられる）ということが挙げられる。また、見た目については、人工ケーシングとの違いがあまりなく、消費者にとっては見た目の違いはあまり大切と受け取られていないという。

また、イギリス人が主に食しているものは人工ケーシングを用いたもので、天然ケーシングは高級な製品として受け取られているとのことであった。

■ 商流と製造方法

原料となる羊腸および豚腸に関しては、イギリス産のものが多い。豚腸の輸入に関しては、デンマークがその約 60% を占めているという。

イギリス産天然ケーシングについて、主に羊腸はモロッコで、豚腸は中国で加工が行われている。特に羊腸に関してはその傾向がより強い。そして、第三国で行われる加工に関しては、全てのステップにおいてイギリスで行われるものと同様の細かな管理が行われており各社で監査をしていること、また時には現地に監査人を送ることもあると強調された。

第三国で加工された天然ケーシングは、そのほとんどがイギリスに再輸入された後、自国内で消費されてしまうとのことであった。（「仮に日本への輸出が可能になったら、輸出はされると思うか」との質問には、「今まではっきりした需要がなかったことから現段階ではわかりかねるが、可能性はある」と回答している。）

■ 主要な事業者

● メーカー

主要なメーカーとしては、

- ➤Van Hessen
- ➤Breck Casing

の２社が挙げられたものの、同時に、たくさんの零細メーカーが存在しており、それらの成長余地も大きいことが特徴であるとのことであった。中小メーカーの代表例としては、

- ➤MCJ Casings
- ➤The British Premium Sausage Company
- ➤Delenco Foods

の３社が挙げられた。

● 卸売業者

主要な卸売業者を聞いたところ、以下の３社が挙げられた。

Yearsley Logistics
Chiltern Cold Storage
Mcculla

■ 規　格

29 ～ 31mm のものが最も人気である。

■ 法規制

現状、製造過程に関する法規制は EU 共通のものがあり、BREXIT 以降も変わることはないとのことであった。

BREXIT について法規制に影響を及ぼしていないものの、先行きが不透明であることからサプライヤーが価格を釣り上げているといい、在庫不足や末端価格の高騰を招いているという。

また衛生に関する認証としては、BRC と SALSA が挙げられた。

２. 現地有識者②

(1) 面談者：Ms. N. W

動物科学の学士を持ち、イギリスの Cranswick Country Foods PLC（食肉加工品メーカー）に 15 年以上勤務し、マネージャー職も務めた食肉加工品の専門家。

(2) インタビュー概要

■ 特徴と品質

まず、天然ケーシングについて、イギリスでは天然由来で柔軟性があり、コラーゲンケーシングとは違って家庭で作ったような見た目になることから、伝統的な印象が持たれているというが、それと同時に高級感があることが特徴とのことであった。

品質に関して、かつては、イギリス産豚腸は固くて噛み切れないといったクレームを受けることがあったが、それ以降は食感を柔らかくするための洗浄や塩抜きなどの前処理の工夫を行っているという。

■ 製造方法

製造方法に関しては、イギリスでと畜されて大まかな洗浄が行われた後の工程は主に中国で行われているという。中国では、腸の処理、腸内容物の除去、内部の洗浄、カット、品質のチェックや口径の選別を行った後、塩蔵パッキングまでされる。その後、イギリスに再輸入される。

中国で加工を行うことに関しては、トレーサビリティの観点から、きちんとした調査が行われているか、また BRC（British Retail Consortium）や、中国国内の規制に沿って加工がおこなわれているのか、といった基準と照らしてチェックするが、EU 規則を超えるようなイギリス特有の法的規制はないとのことであった。

■ 主要な事業者

上述のとおり、ケーシング製造は主に中国に外注しているため、天然ケーシングの主要メーカーは、ほとんどは中国企業となるが、イギリスでも以下の 2 企業はよく知られているとのことであった。

- Van Hessen
- Breck Casings

■ 規　格

また、天然ケーシングには羊腸と豚腸があるが、イギリスで食されるケーシングは約 75% が豚腸と考えられるとの意見だった。見た目も良く、口径が大きく厚みのあるケーシングが好まれ、35 ～ 38mm のものが好まれる。羊腸に関しては、比較的安価な印象で、22 ～ 24mm のものが一般的とのことであった。

■ 法規制など

法規制について、イギリスの EU 離脱の影響について聞いたところ、業界に大きな変化が起きているという意識はないとのことであった。

また、北アイルランドに関する地政学的リスクに関しても、それほど大きな問題ではない旨の発言があった。

第6章　まとめ

1. まとめ

■天然ケーシング市場

羊・豚ともに飼養頭数・と畜頭数は横ばいで推移しており、いずれも羊が最も多い。また、自給率を見ると羊肉は約 100% と高く、豚肉は約 50% と低い。

また、有識者の話によれば、現状は、天然ケーシングはその多くが国内消費に回されており、輸出されるものは少ないとのことであった。その中でも輸出された腸・膀胱および胃の輸出先国を見ると、そのほとんどが EU 域内国との取引であった。

イギリスの天然ケーシング市場を種別に整理すると、取引量ベースでは豚腸が大半を占めており、取引額ベースでは豚腸と羊腸がほぼ同規模となっている。その結果、重量ベースでの取引単価は、羊腸が豚腸のおよそ 2.5 倍高価であった。

以上のことより、と畜頭数が多い羊に関して、既に国内消費のほとんどを国内生産で賄うことができており、さらに、欧州で主に食されるのは豚腸ケーシングである。一方、日本で主に食されているのは羊腸ケーシングであることから、今後の天然ケーシング市場成長のために輸出拡大にかじを切る可能性はある。

■天然ケーシング加工

イギリスの天然ケーシング製造は、主に他国の企業に依存している側面があり、国内メーカーの存在感は弱い。オランダの大手メーカーの Van Hessen と、イギリスの主要ケーシングメーカーの MCJ Casings とは売上規模が 10 倍近く異なる。また､加工を第三国に依存している場合、法規制の観点から輸入障壁となる可能性があり注意が必要である。

■輸入障壁

執筆時点では、我が国が認める天然ケーシング加工に関する「認定ケーシング施設」がイギリスに存在していないことから、イギリスから天然ケーシングを輸入することはできない。また、上述のとおり、加工を第三国で行うと、第三国での加工に関してもイギリス当局の認証等が必要となることから、さらに障壁が生まれる。

ただし、「認定ケーシング施設」の取得や、SRM の除去という輸入に当たっての課題は存在するものの、今後、イギリス側の輸出需要と日本側の輸入需要が高まり、交渉が進めば天然ケーシングの輸入が再開される可能性はある。

2. 参考資料

第1章 イギリスの天然ケーシング調査の概要（※は日付不明）

- 厚生労働省（2019 年 1 月 9 日）. 英国産牛肉等の輸入手続を再開します . 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000178994_00001.html
- 財務省（※）. 財務省貿易統計 . 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.customs.go.jp/toukei/info/
- JETRO（2021 年 1 月 12 日）. 概況・基本統計　英国 . 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.jetro.go.jp/world/europe/uk/basic_01.html
- 外務省（2020 年 10 月 1 日）. 英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）基礎データ . 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/uk/data.html
- 内閣府（2020）. 世界経済の潮流　2020 年 Ⅰ 新型コロナウイルス感染症下の世界経済 .
- AHDB（2019）. The UK sheep yearbook 2019. Warwickshire: AHDB. 参照先 : https://ahdb.org.uk/knowledge-library/the-uk-sheep-yearbook-2019
- AHDB（2019）. UK pig facts and figures - 2019. Warwickshire: AHDB. 参照先 : https://ahdb.org.uk/knowledge-library/uk-pig-facts-and-figures-2019
- Maia Research（2021）. UK Natural Sausage Casing Industry Market Research Report. 香港 : Maia Research
- 税関（2021 年 1 月 1 日）. 輸入統計品目表（実行関税率表）実行関税率表（2021 年 1 月 1 日版）. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.customs.go.jp/tariff/2021_1/data/j_05.htm
- Breck Casings Ltd（※）. Shop. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.sausage-casings.co.uk/shop
- Scomies Direct（※）. Casings. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.scobiesdirect.com/Natural-Sausage-Casings
- Weschenfelder Direct（※）. Sausage Casings. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.weschenfelder.co.uk/sausage-casings-skins.html
- Tongmaster SEASONINGS（※）. Sausage Casings & Skins. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.tongmasterseasonings.com/sausage-casings-skins

第2章 イギリスの天然ケーシング製造の概況（※は日付不明）

- Maia Research（2021）. UK Natural Sausage Casing Industry Market Research Report. 香港 : Maia Research
- Van Hessen（※）. About us. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.vanhessen.com/en/
- MCJ casings（※）. About us. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.mcjcasings.co.uk/about-us/
- Breck Casings Ltd.（※）About us. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.sausage-casings.co.uk/about-us
- TruNet Packaging About（※）. About. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.trunetpackaging.com/about
- Yearsley Food（※）. The Yearsley Food story. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.yearsleyfood.co.uk/our-story/

- Innovative Food Ingredients（※）. About us. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.ifing.co.uk/about/about-us/
- Alderson Ingredients（※）. Home. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.aldersoningredients.co.uk/
- 一般財団法人　食品産業センター（※）. HACCP 関連情報データベース . 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://haccp.shokusan.or.jp/rules/gfsi/
- BRC（※）. About BRC. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://brc.org.uk/about/
- IFS（※）. IFS、Standards. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.ifs-certification.com/index.php/en/
- SALSA（※）. About SALSA. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.salsafood.co.uk/about.php?p=1

第3章 イギリスからの天然ケーシング輸入関連規制等（※は日付不明）

- 税関（※）. 1801 税関で確認する輸入関係他法令の概要（カスタムスアンサー）. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.customs.go.jp/tetsuzuki/c-answer/imtsukan/1801_jr.htm
- JETRO（2017 年 4 月）. 食肉および食肉製品の輸入手続き:日本 . 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.jetro.go.jp/world/qa/04M-010887.html
- 動物検疫所（※）. 検査が必要な物（指定検疫物等）. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.maff.go.jp/aqs/hou/37.html
- 動物検疫所（2019 年 1 月 9 日）. 英国（グレート・ブリテン及び北アイルランドに限る。）から日本向けに輸出されるめん羊肉の家畜衛生条件（仮訳）. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/sub2.html
- 動物検疫所（2008 年 5 月 23 日）. 英国（グレート・ブリテン及び北アイルランドに限る。）から日本向けに輸出される豚の肉及び臓器並びにそれらを原料とするソーセージ、ハム及びベーコンの家畜衛生条件（仮訳）. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/h200523uk.pdf
- 動物検疫所（※）. 輸出国から日本向けに輸出される天然ケーシングの家畜衛生条件（仮訳）. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/aw_casing.pdf
- 動物検疫所（※）. 天然ケーシングの処理施設 . 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.maff.go.jp/aqs/tetuzuki/facility/casing-facility.html
- 動物検疫所（2015 年 1 月 30 日）. Countries（regions）on temporary import suspension associated with the occurrence of Bovine Spongiform Encephalopathy. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.maff.go.jp/aqs/english/news/bse.html
- 食品安全委員会（2018 年 2 月）. プリオン評価書 . 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://www.mhlw.go.jp/content/11130500/kya20170803088_004.pdf
- EUR-Lex（2020 年 11 月 19 日）. Document 02001R0999-20201119. 参照日 : 2021 年 1 月 31 日 , 参照先 : https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?uri=CELEX%3A02001R0999-20201119

終わりに

我が国で流通している食肉加工品は、日本産が９割以上を占めていますが、2018 年 12 月のＴＰＰ 11 の発効、2019 年２月の日ＥＵ・ＥＰＡの発効および 2020 年１月の日米貿易協定の発効により関税は将来的に撤廃されることとなり、今後、国内企業においては価格競争による収益悪化が懸念されるため、生産性及び品質の向上等の国際競争力強化が急務となっています。

こうした状況の中、当組合は、令和元年度より令和２年度までの２年間、JRA のご理解のもと、JRA 畜産振興事業（国産食肉加工品国際競争力強化対策事業）を実施してまいりましたが、本事業により海外食肉加工品の品質・消費・販売・製造環境等に関する情報を収集するとともに、天然ケーシングの安定供給を確保するための課題等を把握できたことは、国産食肉加工品の国際競争力強化に繋がる貴重な成果と考えております。

今般政府は、「食料・農業・農村基本計画」において、2030 年までに農林水産物・食品の輸出額を５兆円とすることを目指すこととし、品目毎の食肉輸出目標を牛肉 3，600 億円、豚肉 60 億円、鶏肉 100 億円と設定しましたが、この食肉輸出目標の達成に向けては、生肉のみならず、豚肉を中心とした食肉加工品の輸出も推進していくことが重要であると位置付けられております。

今後、本事業の成果により、海外市場への輸出を念頭においた国産食肉加工品の開発意欲のある事業者が増えることは十分見込まれ、本事業にご協力いただきました推進委員会および推進部会の委員の皆様には厚く感謝申し上げますとともに、引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、EU 等の現地スタッフのネットワークを活用し、効果的・効率的に基礎データ調査の実施にご協力いただいた株式会社綜研情報工芸・デロイトトーマツコンサルティング合同会社の皆様には、改めて御礼申し上げます。

令和３年３月

日本ハム・ソーセージ工業協同組合

(1) 推進委員会委員名簿

◎座長　（五十音順）

	氏　名	所属等
	石松　嘉幸	伊藤ハム㈱上席執行役員　加工食品事業本部　生産本部長
	江木　英樹	日本ハム㈱執行役員　加工事業本部商品統括部長（令和２年度委員）
	川村　洋三	川村通商㈱社長
	坂田　亮一	麻布大学　名誉教授
	塩島　勉	一般社団法人日本食肉加工協会　専務理事
◎	竹内　裕嗣	大和食品工業㈱社長
	前田　文男	日本ハム㈱常務執行役員（令和元年度委員）
	松石　昌典	日本獣医生命科学大学　教授
	本山　三知代	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 主任研究員

(2) 推進部会委員名簿

◎座長　（五十音順）

	氏　名	所属等
◎	川村　洋三	川村通商㈱社長
	関　道康	㈱日昌トレーディング　専務取締役
	日下部　正	大東港運㈱常務取締役
	島田　謙一郎	帯広畜産大学　教授
	松永　大介	㈱松永商会　専務取締役
	依田　隆實	日本羊腸輸入組合　事務局長

(3) 基礎データ調査協力

氏　名	所属等
鈴木　悟	株式会社 綜研情報工芸
原　真一郎	デロイトトーマツコンサルティング合同会社

2020 年度国産食肉加工品国際競争力強化対策事業

加工資材等安定確保対策事業調査報告書

イギリス編

令和 3 年 3 月 31 日発行

発行・編集　日本ハム・ソーセージ工業協同組合

制作・印刷　株式会社博秀工芸